

工3E38

岡野英太郎
白井静共著

中學日用文範

東京
文陽堂發行
富文館

38

緒言

文字は思想を表はす媒介機関にして、綴方などによりて其ころのさまざまのなりこれ即章ある所以にして文章は名けられたるなりさればにや隔りたる人に心を通ずるには多くは文章によらざるべからざるものにして我國の手翰文は最普通平易を旨とし誰人もたやすくなし得らるゝやうに早くより獨特の發達をなし媒介用具として人事に至便を與へしこそ多辯を用ひざるも明なり而

緒言



して世の様うつろひかはり言も時に依りて變遷するものなればしたがりて手翰にも時世に依りて用語等も多少の趣を異にするものなれば古人の手翰は今人に適せず故に古人の手翰文としては名文雅趣あるものを集めたる書あれどこれ今日學生の手本とするによろしからずさればこそ今人の著今世の文範として顯はるゝもの多かめれど吾輩の眼をもて觀れば或は實用を重ずてふ觀念に偏れるが如くまゝ風韻を失するやのきらひなきにあらずさて手翰

も文章の一部にして言語に緩急抑揚頓挫形容あるが如く人をして多少の興味を感ぜしめざるべからずこれ文に章ある所以にして亦これ此著ある所以なり故に本著は實用を主とし加ふるに抑揚頓挫形容あるものを以てし風韻雅趣の心得をもと著者の意を用ひたる所なれば讀者幸に諒せられんことを希ふと爾云

明治三十六年七月

著者しるす

凡例

- 一 本書は中學程度學生の參考に供せんとして著はせるものなればつとめて學生に必要適切なる文題を擇び中學程度をもて綴りたるものなりされど特り學生にのみならず時勢におくれざらんとするの士は一讀せられなはいかに今人の手翰の古に異なるやを知るに足るべきなり
- 一 本書中注意の項には文題に對し心得べきかどくを説けるものにして著者の最意を用ふる所なれば本書を繙くの士は必ず一讀あらんことを望む
- 一 凡言語に長上に對すると同輩下輩に對することに變

りあるが如く手紙も亦相手方の如何により其趣を異にするものなれば題の下に(父の許へ)などの文字を加へたるは文中父上に對する語調をもて綴りたることを知らしめんとてなり

用語の項には同一の意味を表はす熟語及文題に關して必要なりとみこむる短句をあつめたるものにして習練の便をはかりてなり

中學日用文範目次

(一) 入學の手續を問ひ合する文 ……一	(七) 轉宿を報する文 (國元の父兄の許へ) ……一五
(其一)	(八) 荷物積み立を報する文 (友人に あて、) ……一七
(二) 汽船出港期日を問ひ合する文 ……四	(九) 急病報告の文 ……一八
(其一) (知己の許へ)	(一〇) 死去を報する文 ……二〇
(其二)	(其一)
(三) 書籍の代價を問ひ合する文 ……六	(其二)
(其一)	(一一) 花期を報する文 (國元舊師の とへ) ……二二
(四) 同返事 ……八	(一二) 花を贈る文 ……二六
(五) 入學を報する文 ……九	(一三) 花見に誘ふ文 (同窓の もとへ) ……二八
(其一) (舊師の許へ)	(其二) ……二八
(其二) (國元の同窓の もとへ) ……一三	(一四) 卒業を賀する文 ……三〇
(六) 轉居を報する文 ……一三	

(一五) 入學を祝する文……………三二 (一七) 身元保証を頼む文……………五三

(一六) 昇級を賀する文……………三三 (其一)

(一七) 教員拜命を賀する文……………三四 (其二)

(一八) 新築落成を賀する文……………三六 (一八) 添書を依頼する文……………五五

(一九) 開店を祝する文……………三七 (一九) 紹介を頼む文……………五七

(二〇) 入營を報ずる文……………四〇 (二〇) 喫烟を戒むる文 (友人の許への)……………五八

(二一) 旅行を報ずる文 (師のもとへ)……………四一 (二一) 友人の欠席を諫むる文……………六一

(二二) 世話になりしを謝す文……………四三 (其一)

(其二)……………六二

(二三) 饗應を受けし禮狀……………四五 (二三) 遠足に友を誘引する文……………六五

(二四) 書籍返却にそゆる禮狀……………四七 (二四) 汐干狩に友を誘ふ文……………六六

(其一)……………六七

(其二)……………七一

(二五) 園遊會に招かれし謝狀……………五〇 (二五) 海水浴に同行を催す文……………七〇

(二六) 珍物を贈られし謝辭……………五一 (二六) 納涼に誘ふ文……………七二

(其一)……………九二

(其二)……………九四

(二七) 約束を斷る文……………七五 (二八) 寫眞を送る文……………九六

(二八) 茶話會出席をこはる文……………七七 (二九) 診斷書を請ふ文……………九八

(其一)……………九九

(其二)……………一〇一

(二九) 朝顔を贈る文……………八〇 (其一)……………一〇二

(其二)……………一〇三

(三〇) 國産物を贈る文……………八三 (三〇) 古畫の鑑定を請ふ文……………一〇五

(其一)……………一〇五

(其二)……………一〇七

(三一) 同返事……………八五 (三二) 同返事……………一〇七

(三三) 魚類を贈る文……………八七 (其一)……………一〇七

(三三) 縦覽券を贈る文……………八八 (其二)……………一一〇

(三四) 兵役に入る人に送る文……………八九 (三五) 洋行の留守見舞の文……………一一〇

(三五) 同返事……………九一 (三六) 欠席届差出し方を頼む文……………一二二

(其一)	(六六) 運動會案内狀……………	一二七
(其二)	(六七) 菊見に友を誘ふ文……………	一二八
(五七) 祭日に友を招ぐ文……………	(六八) 菊花を贈る文……………	一二九
(五八) 月見に友を招ぐ文……………	(六九) 懇會親を催す文……………	一二九
(五九) 同返事……………	(七〇) 福引に友を集ふ文……………	一三〇
(六〇) 開校式に友を招ぐ文……………	(七一) 忘年會催す文……………	一三二
(其一)	(其一)	
(其二)	(其二)	
(六二) 任官披露に友を招ぐ文……………	(七二) 歲暮見舞の文……………	一三四
(其一)	(七三) 同返事……………	一三六
(其二)	(其一)	
(六三) 蓍符を催す文……………	(其二)	
(六三) 紅葉見物を催す文……………	(七四) 新年を賀する文……………	一三八
(六四) 送別會を催す文……………	(其一)	
(其一)	(其二)	
(七五) 秋季運動會を發企する文……………	(七五) 同返事……………	一三九
(其二)	(七六) 寒中見舞の文……………	一四一

(其一)	(八三) 死を吊ふ文……………	一五一
(其二)	(其一)	
(七七) 新年茶話會を催す文……………	(其二)	
(其一)	(八三) 戦死者の祭典を催す文……………	一五四
(其二)	(八四) 法事に友を招ぐ文……………	一五五
(七六) 梅見を催す文……………	(八五) 遊學せる友人の許につかはす文……………	一五六
(其一)	(八六) 虚飾の友人を戒しむる文……………	一五八
(其二)	(八七) 粗暴なる友に送る文……………	一五九
(七五) 人の宿所を問ひ合する文……………	(八八) 雪見に友を誘ふ文……………	一六〇
(其一)	(八九) ポート競争を催す文……………	一六一
(其二)	(九〇) 修學旅行せんとて父の許に遺る文……………	一六三
(八〇) 近火見舞の文……………	(九一) 觀兵式拜覽に友を誘ふ文……………	一六六
(其一)	(九二) 同返事……………	一六七
(其二)	(九三) 紀元節に友を集ふ文……………	一六九
(八二) 雨ふる日友人を集ふ文……………	(其一)	

(其二)

(五四) 勤儉貯蓄獎勵する文……………一七一

(五五) 同返事……………一七三

(五六) 尙武の志を獎勵する文……………一七五

(五七) 日清戦争の錦繪を贈る文……………一七七

(五八) 卒業を祝するため招ぐ文……………一七八

(五九) 一身の方向を友人に詢ふ文……………一七九

(六〇) 義捐金を募集する文……………一八二

(六一) 在宅を乞ふ文……………一八四

(六二) 同窓會を開會する文……………一八五

(六三) 同窓會を組織する文……………一八六

(六四) 研究會を催す文……………一八八

(其一)

(其二)

(一五) 發行の雜誌を贈る文……………一九〇

中學日用文範目次畢

中學日用文範

岡野英太郎
白井 靜 合著

(一) ●入學の手續を問ひ合する文

(其一)

私こと、貴中學へ入校いたしたく存じ候へども、
其手續き不明にて、甚だ困難いたし候。さりさて、
當地には、御校に關係ある卒業生もこれなき故、
學年試業前、御繁忙さぞかし、御迷惑の御事と存
じ候へども、右の手續き御教示相願ひたく、勝手

○入學の手續を問ひ合する文

ながら、規則書一通、相添へ、御郵送の程、偏ひとへに希こひねがひ
上げ候。

(其二) (友人の許へ)

氣候不順きこうふじゆんの時節、御壯健、御勉強ごべんけんなされ候事こと、察さつ
し入り候、小生も本學年試験しけんに合格ごうかくいたし、中學
へ入校の資格しきかくを備そなふるこゝなれば、貴校へ入學
いたしたき考へなるが、其手續しじゆき不明ふめいに候故、御
手數てすうの段、恐縮きんしゆくに存ぞんじ候へども、校則ぎょうそく及び、學科程がくかてい
度等、御知らせ下されたく願ねがひ上げ候。

注意

○すべて、人に尋ねるには、ことばを卑ひふするは禮れいなり、さ

れば、かゝる文には、相當の敬語けいごを用ふるこゝ肝要かんようなり、殊とと
に學校などに宛たる文には、無禮むれいのことばなき様、注意ちういす
べし、又、友人や知己の人に問ひ合する手紙には、一應いちおう、時節
の挨拶あいさつをなすは禮れいなり、又、かゝる文には、問ひ合せんとす
る用事ようじが必要ひつやうなれば、うたがひなき様、分明ぶんめいに言ひ表はし、
文字の認め方も、ていねいにすべし。

用語

○貴校は、校規正しく生徒の品行方正と承り候 ○貴兄御
在學の中學は、校則正しく、監督嚴重、器械等整頓のよし ○
小弟も是非入學いたしたき考へ ○手續しじゆき不案内にて困
却きやくいたし居り候 ○入學試験の學科、及程度は如何に候か
○寄宿舎賄料は如何程にて候か ○御壯榮御勤學の由 ○
洞察たうさつ仕り候 ○御うらやましく存ぞんじ候 ○日増に御盛大の
由 ○御明教なし下されたく願ねがひ上げ候 ○貴答待ち居り

申候 ○御返事御まぢ申候

(三) ●汽船出港期日を問ひ合する文

(其一) (知己の許へ)

小生、こたび、父母の許可を得て、來る何日頃、當地出發、遊學の途に相上ること、に定り候。就ては、御港發船の汽船は、何日何時に御座候か、御聞合せ、御一報相願ひ度、委細は、其當時、御訪問致すべく候。

(其二)

貴社ますます、御繁盛、賀し上げ候。今般、東京まで貨物積み送りたく、貴港より該地へ出帆の汽船何丸は、概ね、毎月何回何日にこれあるべきか、業務御多忙中、恐れ入り候へども、御通報相願ひ候以上。

注意

○かゝる用事にて始めの文の如く、時日せまり、至急を要する場合には、冒頭の挨拶を略し直ぐに用事をかきはじめて可なり。又、汽車汽船の如く、發着期日の正しさものは、問はんとする發着月日時間等を、かきもらすべからず。

用語

○兄上と相談の上 ○後見人の同意を得て ○何地何中學校へ入學いたすことに確定いたし候 ○何日頃、行李を、どのへ、發足いたす考に御座候 ○笈を負ひ東都留學の途

につく○東京上下の列車、發着時間表○貨物積み込みの
列車は、何番列車に御座候か○當地より某地へ向け發車
は、午前は何時に候か○某地より當地着車は、午後の一
番は何時にて候か○何々九拔錨期日は何日なるか○詳細
承知仕りたく○御報答相願ひたく○執務煩多のどころ
貴報相煩したく候

(三) ●書籍の代價を問ひ合する文

(其一)

今般貴店より發賣の實驗適用新撰算術は、代金
何程にて候か、且つ郵送料をも、承知いたしたく、
郵券三錢封入いたし置き候間、此狀着次第御返

事下さるべく候。

(其二)

記

一新撰日本歴史問答

壹部

一家庭の教育

壹部

前列記の書籍、實價相伺ひ度、返信料相そへ、御問
ひ合せ申し候

四月一日

大川 太郎

文陽堂書店御中

注意

○かくの如く、多人數を相手にする書店などに問ひ合す

る手紙は、一見明了にして、手みじかなるをよしとす。且書名、部數等は明らかに、したゝむべし。又、一人にあらざる堂名、或は會社、學校等を宛たるものには、御中とかくべし。

用語

○御賣捌相なり候 ○御出版の日用の文字 ○御發行の文學雜誌 ○右購讀いたしたく ○かねて新聞に廣告相なり候 ○價額は如何程に候か ○金額何圓なるか ○購求いたしたく ○購求したく ○御尋ね申し候 ○照會に及び候 ○回答なし下され度候、

(四) 同返事

御書面、拜見仕り候、御照會にあづかり候、新著新撰算術壹部賣價金三拾五錢、外に郵税金八錢に御座候間、なにぞ、御購讀、御吹聽相願ひたく、御

注文の節は、迅速御郵送仕るべく、此旨御答申上候。

注意

○かゝる返信は、商賣のことなれば、尤も大切に、敬禮、語を用ゐ、かりそめにも、花客の意を、そこなふが如き、無禮粗言のなきやう、よく注意すべきことなり。且、代金、及、郵送料など、金鏡にかゝることがらをば、曖昧な事を大切としるべし。

用語

○小爲替にて何局へ宛て御振り出し願ひ候 ○郵券代用は御謝絶仕り候 ○神速發送仕るべく候 ○見本として一部進呈仕り候間、御閱讀の上、御披露の程、吳々願ひ上候、

(五) 入學を報ずる文

(其一) 舊師のもとへ

私事去る二十日、父と同道にて、上京、翌二十一日より、何中學校入校試験、相受け候ところ、幸に合格いたし、今日入學手續き相濟み申し候、尤も成績は、係員に尋ね候へども、入校試験成績は發表せぬこの事にて候へば、其出來ばへは、如何なるにや知るを得ざれど、兎に角五拾名の中に入りたることなれば、御安心なし下され度、これひこへに、先生御教育の御親切なる結果、感謝仕り候、とりあへず、御禮旁御報申し上げ置き候、尚、學

校の様子をば、知るがまゝ、御知らせ申し上げべく、餘は、後便に、ゆづり申し候頓首。

(其二) 國元の同窓のもとへ

御校在學中は、貴兄等の御厚意をかたじけなふし、日々勉強、遊戯、其情、兄弟の如き、今なほ、なづかはしく、片時も忘れ申さず候。さて、小子事、諸君に御別れの節、御咄しせし如く、某中學校に入學濟に相なり候故、御安心相願ひたく候。此事がねて、先生に申し上げ置き候故、定めて、御聞き及びの事と考へ、委細は申し上げず候、先は右通知、旁、在

學中の失敬を謝し申し候。

注意

舊師、父兄のもとに、つかはす文には、敬意、敬語を表すこと大切なり、其恩の洪大なることを謝すべく、かりにも、暴慢あるべからず、やゝもすれば、己れの學少しく進みたるをたのみ、舊恩を忘却し、失敬の語を用ふるものあり、これは、甚だわるし。又、同窓に對して、己れの學を、うらんため、六ヶしき言辭を使用して、はこるべからず。

用語

○入學競争試験に合格いたし、本日、許可相なり申し候。○保證人は御指名の御仁に依頼いたし候。○宿所は表記の如く、叔父の許に同居いたし候。○毎度、懇篤なる御教訓にあづかり。○早速御報知仕るべく、のどころ、どやかく、用事にとりまぎれ、大に延引仕り候。○御無音にうち過し、死罪

の至りに御座候。○本年は、應募者、非常に大數なりとのことにて、殆ど二百名に達したるやに承り申し候。○小生成績は末記の如くに候。○本試験の問題は、別紙記載の如くに御座候。○諸君の學力にては、優等の成績を得ることと存せられ候。○委曲は後日にゆづり申し候。○御送別下され多謝仕り候。○感拜の至りに絶えず候。○模様御知らせ申し候。○何村兄上にも、此事御傳へ下されたく候。

(六) ●轉居を報する文

野生、今般都合により、何町何番地へ轉居いたし候故、御報知申しあげ候。至て倭屋に候へども、従前よりは、稍都合宜しく、至極閑靜にて、夜間は勿

論、晝間といへども、車輪の音稀なれば、書見などいたし候には、適當の地にて候、此邊御通行の際は、御休息願ひ上候。

注意

○かくの如き手紙は、轉居先明了なれば、簡短なるをよしとす。されども、亦土地の模様などを、手みじかに、かき添ゆるも可なり。

用語

○舊宅よりは、少しく好都合にて○家屋は、いと、ふるびたれど、庭前は随分、餘ありて、植木も少しく、これあり候○至て、靜に御座候○別段、耳に刺聲をあたふるもの、これなく候○御一泊ながら、御枉駕下され度候○日照には、御來車下されたく、終日、御閑話相願ひたく候

(七) ○轉宿を報する文(國元の父兄の許へ)

拜啓、從前の地は、濕氣多く、空氣不潔にして、衛生に適せず、且、下宿人も多く、中には、随分、亂暴の書生も居り、隣室の勉強せるにもかゝらず、音讀をなし、時々、角力を始むるなど、なかなか候、のみならず、學校へも、ちと、手遠に候へば、去る日曜日に、表記の箇所へ轉宿いたし候間、御報道申し上げ候。今度は、土地も高燥にして、隨て、空氣清潔加ふるに、四面閑靜にして、勉強には、好適地に候。尤も、こたひは、素人家の一室をかりうけ、家人の

如く、起臥、飲食を、ともにすることなれば、下宿屋
と、ことなり、何事も心ゆたかに、少しの心配なき
こと故、御安意下されたく候、爾來、書狀等は、こゝ
に宛、御さし出し相なりたく願ひ奉り候。

注意

○本文の如く、父兄其他、保證人等へ、さし出すには、轉宿の
理由を、くはしく報道すべし。然らざれば、先方にては、心配
することあればなり。

用語

○不便なるところなれども、誠に静にて候。○公園に近き
故、勉強の後も、鬱散のため、漫歩するには、至て都合よろし
く候。○家人は、都會の薄情なる人には、似もやらで、至て親
切に御座候。○庭掃除などの手傳ひいたし候は、誠に運動
のため、よろしく、且、興味あることに候。○御懇念なく母
上へも、よろしく御傳への程、祈り申し候。

(八)

●荷物積み立てを報する文(友人にあて)

貴兄、去る拾日、無事御歸國の旨、拾一日の發信に
て、承知いたし候。久しく異郷にありてのち、父母、
兄弟と、相見るとの嬉しさ、察し入り候。御別れの際、
依托せられたる行李、今朝、荷造りいたし、本日午
後、拔錨の汽船、日本丸に積みこみ、御送附いたし
たり、御地、到着の上は、御査閲の上、御受取り下さ
れたく、尤も、上包みには、小生の小印にて、確く封

印いたしたれば、念のため、申し添へ候。

用語

○足下、無異、御歸郷の趣○貴君恙なく御到着の由○貴下には、去る何日、御安着の由○拾五日附郵便、たしかに披見いたし候○御對顔の節は、定めて欣喜雀躍のこと、遙察いたし候○父母の温和なる顔色と、親切なる愛情とは、今更思ひ起さるゝこと、存じ候○寄宿舎生活と家庭の生活とは、便否、雲泥の差あること、存せられ候○頼みに依り、早速荷造り○御請托にあづかり○今朝下り第三列車に、荷積みいたし候○御檢閲御落手下されたく○御到達の節は、御一報を煩したく候○琉球包み、しめなはに、封印いたし置き候

(九) ●急病報告の文

前文省畧、愚父儀、只今卒然發病仕り、大に驚愕、神速、近隣の醫師を招ぎ、治療相受け候ところ、急性腦充血のことに、服藥安臥いたし居り候、一命には及ばざらん、と存じ候へども、一應、御出駕相願ひ度、取り急ぎ、亂筆御免。

注意

○かゝる急報の文には、前文を畧し、直ちに處用をかき、一は手數をはぶき、一は讀者を煩はさざる様に、したゝむべし。又、たい急病とのみいひ、或は大病とのみいひ置きたらんには、大に讀者をして、心配の念を惹き起さしむるものなれば、病狀を簡明に申しつかはすべし。

用語

○前文御免○愚兄事、突然、困倒いたし○御令息様、課業中、

急に發熱いたし○生等驚愕直様學校醫の診斷加療を請ひ○流行性寒胃のため發熱の由○使の者と同道御出來相願ひたく○此段急報仕り候

(一〇) ●死去を報ずる文

(其二)

愚父事かねて病氣のころ感冒このみ思ひ居りしに日増しに衰弱いたし候故大學病院へ入院療養せしも老體の事とて藥石効を奏しがたく去る二十五日午前第五時永眠仕り候間御通知申し上げ候葬式は二十八日午後二時自邸出

棺青山墓地へ埋葬いたし候遺言により萬事つづまやかに行ふことにて候へばたく儀式の一端を擧ぐるのみに候依て造り花放し鳥等の御寄贈はかたく御ことはり申し候

(其二)

葉書を以て申し上げ候愚弟忠二儀久しく病氣のころ療養相叶はず本日午前二時三十分死去いたし候間さりあへず御報道申し上げ候尙埋葬の儀は明後二十八日午前十時自宅出棺龍光寺へ佛葬相營み候間御承知願ひたく候

注意

○かゝる手紙は、會葬の都合も、あることなれば、出棺の時
 間及び埋葬の場所は、かならず、かき落しなき様に注
 意すべし、喪は、そのかさめんよりは、むしろ悼めよとの教
 もあることなれば、造花及びたてはたなを、今迄きの如く、
 奢りにはしれる世にては、なるべく謝絶するをも、一の注
 意と心得べし。

用語

○百方療養を加へ候へども○病氣次第に重もりて、身體
 かどろへ○四五日前、危篤と存じられたれど○遠逝いたし候
 ○黄泉の客とあひなり候○鬼籍に入り申し候○不歸○
 旅路に赴き申し候○葬儀儉素を旨とし、相營み申し候○
 辱知諸君へ御報告仕り候○御寄贈品は、一切御謝絶申し
 候○生前の遺言に依り、かたく御断り申し候○御會葬相
 願ひたく候○いとかなしき○あまり、言文、その當を得ざ

る儀は、御ゆるし下されたく候

(一一) ●花期を報ずる文(國元舊師のもとへ)

春暖の時節に、さしむかひ、山々笑ひ初め、川の水
 音して、何となく、心のどかに相覺は候ところ、御
 高堂、ますます御安泰ならんと賀し奉り候、つぎ
 に、私事、まことに、壯健にて勉學いたし居り候ま
 ま、は、かりながら、御安心下されたく候。さて、定
 めて、新聞紙上にて、御承知のこゝろは存ずれど
 上野公園の櫻花、日頃の暖氣にさそはれ、ほころ
 び初めたるさま、今日、實驗いたし候、氣候の劇變

なく、風雨の障りも、これなく候は、兩三日後は、十中四五の開花にて、見頃の事と察し申し候御清閑も候へば、御家内うちつごひ御一遊なされ候ては如何にや、萬一雨天等のため、満開の期を失し候ても、落花は、また一段の興味を添ふることに候へば、是非御上京遊ばさるべく、尙々墨隄の開花は、一週日後と、存せられ候。先は花の御案内まで、早々。

注意

○かゝる手紙は、たゞに花の案内に、とゞまるものなれば、これぞといふ用事もなく、又、火急を要するといふにもあ

用語

らねば、時節の挨拶、自分のありさまも、いひやること然るべく、開花の時期、模様等を、明記することは、肝要にして、ことばは、雅にして美なるを上品とす。

○春風駉蕩の時節 ○暖氣相催し ○草木蓄をやぶり、飛鳥梢になくの時 ○御瑤堂泰山の如く ○御尊體ますく ○壯榮 ○珍重此事に候 ○愚弟、殊の外、丈夫にて、寒胃の患もなく ○豚兒壯健にて、其日を送り申し候 ○早櫻は満花 ○晩櫻は、つぼみを含み居り候 ○花に風は、大禁物に御座候 ○落花の雪、亦、一トしはの詠めに御座候 ○隅田の詠めは俗なるも、小金井の櫻は清麗にして、文人墨客の、尤も賞賛するところに御座候 ○花時を期し、小集相催したく ○御約束により、御案内申し上げ候 ○萬障御さしくり、御來遊おそばさるべく候 ○御知人へも、よろしく、御知聲相願ひた

く候 ○御子息様をも御同行いたされたく候

(一一一) ●花を贈る文

庭前の櫻花、昨今の暖風に、さそはれ、一二輪笑を、もよほし、鳥ならでは、訪ふものもなき小庭なれば、天真の美、小生のみながめんも、あまり面白からず、返りて、花のほねにもどり候ま、兩三枝切り取り、御高覽に供し候間、尊大人、挿花の御材料に相立て下さることに候へば、本懐の至りに御座候。尤も、小生の如き、挿花の心得なきもの、撰擇せし枝なれば、定めて御役に立ちがたくも

しも御のぞみも御座候はば、失禮ながら、御自身、御入來、御切り取り下され候ても、苦しからず候敬具。

注意

○本文も、前のと同じく、風流の氣味をふくめる手紙なれば、用語は、美しきを貴ぶことゝ知るべし。

用語

○小庭の花やうく、咲き初め候ま、○枝ぶり面白からねど、○あまり古りたる枝には、あらねど、○花こそよく咲けど、雅致ある枝とは申されず候も、○一兩朶、○紅白の兩枝、○先生の御許にまでさし贈り申し候、○貴下の見立てに御まかせ申し候ま、○御なぐさみにまで、進呈仕り候、○生花は、不得手のことに候へば

(一三三) ●花見に誘ふ文(同窓のもとへ)

市人雑沓老幼あひつどひ花見の往來織るが如しこや申すべきか出遊漫歩の好時機に候。しかし上野や向島の花は俗人にけがされ清麗の眞味を得がたく小金井の花は實に生等の玩賞に適すべく明日曜を幸ひ同窓相ひ携へ日頃の鬱を散せんと欲す兄にして同意を表せらるゝならば午前八時余の寓に御會合なし下され度御誘引申し上げ候。

注意

○かゝる手紙は清麗洒落をたつとび一見出遊の念を起

さしむる様にかきたきものなり尙辨當持參などかきそふるは儉素にして且面白し。

用語

○長堤十里花ならぬはなく時ならぬ雪と相見え申し候
○今をさかりと咲きみだれ雲か霞かとのみあやまらるる程の見ばへと承り候
○清心を養ふの好時節に御座候
○朝日にはふ色香をめぐるは一としほのなぐさみと存じ候
○小生一人にてはさびしき故
○同志相つどふは最も興味あることなれば
○閑雅清淨にして眞に世の煩を慰むるに足るとかや
○さるおぼしめしの候はずや
○某々氏へもこのこと申しおきたれば
○辨當として喰パンはすでに用意しあれば
○失敬ながら君より御立ち寄り願ひたく候

(一四) ●卒業を賀する文

承れば、貴下には、昨日を以て、某中學御卒業なされ、證書領受なされ、加ふるに、上成績にて、優等の賞與にあづかり候趣、これ、君が天才の、いたすところなれど、平日、勉強の力こそ、あづかれる事大ならんぞ、存ぜられ候、かげながら、まことに、欣喜の至りにたへず候、所謂、錦を着て故郷にかへるとは、實に、この事にて候。先は、御祝詞申し上げ候。

注意

○かゝる手紙は、十分、祝意を表することに、力をこめ、かり

そめにも、不吉の言を用ふべからず。文字のかき方、行のしな、め方をも、念入れて、正しくすべし。又、文具、書籍などを贈りて、祝意を表するもよし。

用語

○御書狀に依れば、去る十日、何中學、滞なく御卒業の由、卒業證書拜領いたし候趣、○成績非常によろしく、○成績佳良にて、○好成绩にて、○賞品を、うけられ候旨、○平素、○勉學、今日あらはれ申し候、○奴馬も駿馬に如かじと、かや、○父母兄弟の御よろこびいかに、かばかりにや、○御祝ひのしるしまで、に、御目にかけて候、○御受納相願ひ候。

(一五) ●入學を祝する文

去る二十五日、發御手翰、拜見いたし候。さて、某中

學入學競争試験に、好成绩にて、合格なされ、滞りなく、手續相済み候趣、賀し上げ候。この上は、勉強は、申すに及ばず、悪友に迷はせられず、邪道に、おちぬらざるやう、注意あそばされ、身體の健康を保ち、常に、上席を占め、無事、御卒業、御歸國の程、まぢ居り申し候。

注意

○かゝる手紙には、賀意を表すると同時に、本人將來の注意をあたへ、中途、失敗をふせぐ意味をかきそゆるも、亦、一つの格と心得べし。

用語

○去る何日投函の御書狀、披見仕り候 ○撰抜試験に御及第の由 ○入學済みの趣 ○善惡邪正を考慮の上 ○いつも

首席にあらせられ候やう ○惡友をさけ、益友をゑらびて ○人は善惡の友によると申され候故 ○御よろこび申しあげ候

(一六) ○昇級を賀する文

君には、この程の學期試験に、御昇級なされたり、ごまことに、御目出度きことに存じ候。平日怠らず、御勤學なされたること故、かゝる結果を來せらるにて、御うらやましく存じ候。何卒、此上ごも、ますます、御勉勵、一日も早く、御卒業の程、あらまほしく候。

用語

○先日の試業には、優等にて、御昇第のよし○御登第なされ候旨○欣喜の至りに御座候○平素怠慢の書生は、なかなかに不成績と承り申し候○御羨望いたし申し候○御卒業のほど、呉れ、企望いたし候

(一七) ●教員拜命を賀する文

鄙札を以て、謹啓仕り候、先生には、今般、某中學校教授拜命、御赴任遊ばされ候由、御榮進の程大賀奉り候。併し、ひるがへりて、生等を顧れば、常に、懇篤深切の御教授をかふむり候。先生と、御別れ申し候は、嚴父に別るゝが如き思ひして、なみだに

むせぶ外なく候、自今、生等を捨てず、おりく御様子、御報道下され候はば、生等の幸榮、これに如くものなく候。

注意

○かかる手紙は、まづ祝意を表するは、勿論なれども、これまで、深き關係あることなれば、其別を、おしむは、猶更賀意をつよむること、知るべし。

用語

○此度御榮轉の旨は、のかにうけたまはり申し候○先生の子弟を見る慈母の子を愛するが如くに候○慈母を失ふが如く、言のつくすべきなく候○御見すてなく、よりよりは、御手紙下されたく、偏に願ひ上げ奉り候○該學の面目、目ならずして相革り申すべく候○人才輩出、人目を驚

すことと存じたてまつり候。○國家のため、祝し奉り候。○御送別のしるしまでに、硯箱、貴覽に入れ奉り候。

(一八) ●新築落成を賀する文

爾來意外の御疎遠、深謝奉り候。かねて御起工遊ばされ候御別邸、近來御落成なされ候由、定めて御壯麗、且衛生に適する御構造ならんご察し奉り候。いづれ其内拜趨の上、拜觀御慶賀申上ぐべく候へども、取り敢へず御よろこびのしるしまて、鯛兩尾、尊覽に供し候まゝ、御受納下され度候。

注意

○かゝる手紙は、吉祥の言辭を用ゐ、一見祝意、紙面にあふ

用語

るゝが如くすべし。又、贈りし者は、目出度き品物なるべし。○其後は御疎遠に打ち過ぎ候段、萬死もたゞならず候。○御工事竣成の段、○高樓大家、輪奐の美をつくし候はんと存じ奉り候。○空氣の流通、光線の通過、よろしからんと察し奉り候。○衛生によろしく身體の健康は、申すまでもなく。○實用を主とし、華美に流れざる御構造。○御笑納の程、希ひ上げ候。

(一九) ●開店を祝する文

愈御多祥、賀し上げ候。かねて御志望の商業、こたび、御開店なされたる由、慶賀の至りに候、場所も屈竟にて、且つ、販路廣大なる商法に候へば、日増

に、御繁榮のここ、うたがひなく、加之、斯業に御經驗充分なる貴下のここなれば、御如才なきここは存ずれど、一言御参考のため、申し上げ候。そは、別儀にあらず、商法は元方仕入のかけ引きは、花客の信用と正實を旨とし、暴利を貪らざるは、これぞ、このみちの秘術とも申すべく、さすれば、遂に名望を博し、益々、隆盛利益は期せずして至ると申すべく、野生の老婆心、御祝詞ととも、御受け下され候はば、本懐の至りに堪はず候、敬具。

注意

○本文も、亦、前に出せる入學を賀する文と同じく、祝詞をのぶると、ともに、心あたりのことども申しこして、注意を加ふるものにて、一見いやみを感じゆるが如きも、かへりて、其人を思ふのあまり、經驗をのぶるものなれば、かへりて、祝意の味ふべきものなり、亦、祝文の一格なれば、かれこれ照し合せんことを、のぞむ。

用語

○商業御開店相なり候由 ○社會の需用をみたす品にて候故 ○人生一日も欠くべからざるものに候へば ○粗生品に加工する事業に候へば其利あること、必然と存せられ候 ○資金充分に御座候故 ○仕入等に差し支へなく ○貴兄の商業に鋭敏なること、つねに感服いたし居り候 ○信用をうることを肝要に御座候 ○拙劣の蕪言、御氣にとめらるゝことなく ○聊申し述べたる次第に御座候 ○業

務熱心に營まれたく○御よろこびのしるしまでに、此品御手元にまでまゐらせ候○本望に御座候

(二〇) ●入營を報ずる文

小子儀、今回、徴兵適齡につき、検査の上、甲種の合格當籤いたし居ることは、其當時申し上げたる如く、去年十二月一日入營の都合に御座候ところ、生憎健康を失し候故、止むなく、猶豫相願ひ、爾來攝養怠りなく、現今倍舊の體格と相なり候ひしを以て、本日入營仕り候間、御安心下されたく候。ついでに、君のため、國のため、粉骨碎身、軍事に

従事いたすべく候まゝ、取り敢はず、御報まで、此の如くに御座候。

注意

○國家のため力をつくすべき任に赴くものはよろしく勇壯なるべく、隨て、言辭壯快なるをよしとす、然れども、いたづらに、大言壯語を弄ふべからず。

用語

○抽籤の結果、近衛歩兵に編入せられ○本日入營相濟み申し候○國君のため身を犠牲に供するは、軍人の本分と心得居り候○一朝事あるの日、身命は願ひいとまなくと存じ奉り候○軍規を守り、上官の命に服し、奮勵仕るべく候○服役中必ず歸省いたさざる覺悟に候○家事の儀は、萬端心添えの程祈り奉り候

(二一) ●旅行を報ずる文(師のもとへ)

私儀、地理學研究のため、明日、日光山へ旅行、兩三日、該地に滞在の豫定に御座候。同行者は、同級生二三、これあり候。大人に於ても、該地へ御用向も御座候。はば、使の者に仰越し下されたく、實は御伺ひ申すべく候へども、事甚だ急にして、本日は行李をこゝのへ居る次第なれば、失禮の段、御ゆるし下されたく、御歸京の際は、直ちに伺候仕るべく候。

注意

○かゝる手紙の如く、長上につかはすものは、自身出頭すべきが禮なれば、故障ありて、出ることを得ざる旨をのべて、欠禮を謝すべきなり。

用語

○學術研究の必要を生じたるを以て○出發仕り候○發足いたし候○宇都宮に一泊の積りに候○某講師の先導にて候○商用にて某地に向ひ、明後日、汽車にて出發いたす心組に候○處用御遠慮なく御申しこし下されたく候○小生にて御用相立ち候はゞ○到着次第、御一報申し上ぐべく候

(三三) ●世話になりしを謝する文

(其一)

謹啓、過日は、御多忙の御中、種々、御配慮をかふむり、御厚情のほどこそ、ありがたく存じ候。いづれ、參上のみぎり、御禮申し述べ候はんが、畧儀

ながら、書中にて、謝意を表し候、叩首。

(其二)

一書拜呈、過般來は、御繁忙の御身を以て、再三御來臨を煩し、御厚意の程、深謝し奉り候。御蔭を以て、萬事好結果を奏し、小生の宿望相達し、いよいよ以て、遊學のはこびに相成り候事、偏に大人の御計畫宜しきがため、頑父も、やうく心を解くに至りたる次第、爾後、一心不亂、勉強に事よせ、御意に報ひ申すべく候、頓首。

注意

○かゝる手紙は、厚情を謝するものなれば、誠意より出る

用語

が如く見ゆるを第一とす。なほ書體たゞしく、脱字なく、文字の列をみださざるやう、つゝしみて認むべし。又禮のしるしとして、わづかなりとも品物もそゆるもよし。

○御厚志のはど、ことばにつくしがたく○世のつねならぬ御厚意の程こそ、ありがたく侍れ○貴下の御盡力に依り○御厚庇にあづかり○紛議相解け申し候○はからざる災難に逢ひ○意外の出來事にて○ことの外、近火にて大に驚きしが○直ちにかけつけ下され○虎口をのがれ申し候○御手厚き介抱に依り○車まで御仕立て下されたる故○芳志忝なく鳴謝仕り候○千萬謝し奉り候○御笑味下されたく候○輕少、恐縮の至りに候へども○御叱留願ひ奉り候

(二三) ●響應を受けし禮狀

○響應を受けし禮狀文

昨夜は、御招ぎにあづかり、意外の御饗應をかふむり、御厚意筆紙につくしがたく、ここに、酩酊長坐仕り、さぞかし、御迷惑の御事と恐縮の外なく候、御伺ひ、御謝辭申しのぶべくの處、御懇意にまかせ、書面にて御禮申し上げ候、御令聞始め、御家中へも、よろしく御致聲相願ひたく候

注意

○かゝる手紙には馳走にあづかりし謝辭は、勿論、無禮粗言せしことなどを、わび併せて家族中へも、禮のことはをのぶべし、家族への謝辭は、尙々書としてかきそふるも、又、文章の一格と心得べし。

用語

○御招待を受け○殊の外御馳走をいたゞき○御禮の言

も御座なく候○閑談興に乗じ、はからずも、大酔仕り○定めて御粗言申し上げたらんと、後悔いたし居り候○この義、御他言なく、御容謝下されたく○御老母始め、皆々さまへも○よろしく御傳聲祈り奉り候

(二四) ●書籍返却にそゆる禮狀

(其二)

かねて、拜借をこひおき候、中學國語、文典、使者を以て、御返上仕り候、御めぐみに依り、疑義氷解いたし、其値、千金もたゞならず候、尙、此上とも、入用のみぎりには、御借覽仕りたく、小生に於ても、貴下の御用に相立ち候もの、これあり候はば、何時な

りごも、仰せ付けられたく、御手数ながら、御落掌の旨封筒へなりごも、一寸御みこめ下されたく願ひ上げ候。

(其二)

過日は、少々取り調べたき事件相生し、御秘藏の書籍御借閱を請ひ、御蔭に依り、たやすく調査をこび、一篇の知識數萬の富にまさる次第謝辭のつくすべくもあらず候。御大切の品なれば小生自身持参いたし、御返戻仕るべくの處、手放しおたき用事、さし起り候につき、失禮ながら、愚息に

持たせ、御返却仕り候まゝ、御領収の程、願ひ奉り候、拜具。

注意

○借用物は、大切にとりあつかふべきものなれば、自身返却するをよしとす。しかし、持参出来がたきときは、あまりながく借るも無禮なれば、使にもたせ、つかはすことも、まあるなり。かゝる場合には、出向くことを得ざるを謝し、又、紛失の恐等もあれば、受取證を乞ふもよし。尙ほ、なるべくは、下婢などをさけ、妻子等身よりのものに代理せしむるは、大切の意を表する一端と心得らるべし。

用語

○世に得がたき御書籍 ○御大切の御藏書 ○近來罕なる書物 ○最近出版にかゝる ○本邦にては、えがたきものに候 ○取調べかねて落膽せるところ ○氷然として、了解

いたし候○一字千金とは古人の格言にて候○御返上申
上げ候まゝ、勝手ながら、領收書相煩し申したく候○愚妻
に代理せしめ、御返戻仕り候

(二五) ●園遊會に招かれし謝状

肅啓、本日は、御盛大なる園遊會に陪し、奇木珍石
をはじめ、御寶藏の書畫、古器物を、拜見仕り、一つ
として人目を驚かさざるは、なく、殊に、年來御丹
精なされたる盆栽は、風韻雅致、一段の光景を増
されたるもの、如くに見受けられ候。又、立食の
御響應は、糸竹のもてなしより、もたふごとく、これ

みな、老大人、脱俗のいたすところと、感服いたし
候、歸邸早速、謝辭かくの如くに御座候、再拜。

注意

○人にまねがれたらんに、は、たゞに、飲食の美なるをたつ
としとせず、其心ばへの美なるをたつとしとす。故に、其の
心をかしはかりて、謝辭をのふるも、亦、文の一格なり。

用語

○御盛宴に列し○御培養の花并草木、拜觀仕り、其の非凡
なるに驚き入り候○置物、其他、古物の配列、常人の及ぶと
ころにこれなく候○造りものは、見受けられず候○天
然の雅を失せず候○庭苑廣大、山水の美をそなへ、天真の
美とは、此ことならん、感佩仕り候○心事の潔白かのづ
と御園にあらはれ申し候○立食立飲、頗る満腹醉體をさ
はめ候○來會者の數多なること、門前市をなすとはこの

ことに候

(二六) ●珍物を贈られし謝辭

御手翰拜見、貴兄先頃中某地へ學術上の研究にて御旅行なされ、一昨日御歸宅のむね、只今承知いたし候。御不在中、御見舞もいたさず、御無禮仕り候。さて御土産頂戴、ありがたく拜受いたし候。この品は、該地の名産とは聞き及びけれど、當地には絶えてなき故、今日始めて實物を拜見仕り、何よりの珍物、大切に保存いたし置くべく、御厚志の段謝し上げ申し候。

用語

○無事御歸宅の由、賀し奉り候。○留守中は、何の心添へもいたさず、失敬の至りに候。○かへりて、御惠贈をかふむり。○實に得がたき品にて候。○該地の名産、其風味、至りてよろしく、當地の産に比すれば、其大きさは殆ど二倍の果物に御座候。○當地にては、まことに、珍しく、直様感嘗仕るべく候。

(二七) ●身元保証を頼む文

(其一)

小生このたび、某中學校編入試験に相應じ候ところ、幸に入學さしゆるされ候。つきては、身元保証人を要する儀に候へば、他にしかるべき知人

もなき故、是非とも、貴下に御ねがひ申したく在
學證相そへ、御依頼申し上げ候。

(其二)

尊家、ますく御多祥、賀し奉り候。さて小生、こゝ、
今般都合を以て、表記の地へ轉居いたし候。つひ
ては、甚だ御迷惑とは存じ候へども、借家證の身
元保証人として、御調印相願ひたく、貴君に對し
本件につきては、毛頭御迷惑は相かけ申さず候
まゝ、別紙、借家證、相添へ、願ひ奉り候。

注意

○かゝる手紙は、なるべく、懇篤に依頼するの意をのぶる

ことをつとむべし。又其二の如く、保証人に金銭上の責め
の生ずるものには、かならず、迷惑をかけざる旨をも、書き
添ふるをよしとす。

用語

○編入試験撰抜の結果、入校許可、相成り申し候につきて
は、○入學試験済の上、在學證さし入るゝことに相成り候
に付、○本人は至て正直なるもの、貴下の御迷惑には、なる
ことなしと信じ候故、保証なし下され度、○本人の身上に
つきては、一切引き受くべきに付、御捺印相願ひたく候、○
何學校へ入校いたさせ候につきて、○御連印偏に願ひ奉り
候

(二八) 添書を依頼する文

先日は參堂、御多忙のところ、御面會を請ひ、恐縮

の至りに候。其節、御依頼申し上げ置き候通り、明日曜を幸ひ、訪問いたし、面謁の上、該先生の書生相つこめたき旨、御頼み申す積りに候へば、甚だ御手数、恐れ入り候へども、一筆、添書なし下されたく、明朝御出かけの節、御立寄り申すべく候間、其れまでに、御認め置きの程、願ひ奉り候。

注意

○添書をあたふるといふは、其人を信ずるにあらざれば、たれ人も、なすものにあらざる故、かゝる手紙をこはんとする時は、前以て、其人を訪ひ、あらかじめ承諾をこひ置くべし。併し、遠方の人には、其手續をはこびがたきものなれば、訪問の難きをのべてねんごるに、依頼のよしをいふべし。

用語

○誠に御迷惑の事に候へども、御添書の程偏にたのみ入り申し候。○萬々御察し申し候へども、衷情、御洞察の程、呉れく御依頼申し上げ候。○實以て恐縮の至りに候。○御面倒の至りに候へども、○明日中に御したゝめの程、希上候。

(二九) ●紹介を頼む文

私書道に志し居り候へども、摺物などにて、獨習するも、なか／＼上達いたさざるにつき、良師につき、少々執筆いたしたく、承り候へば、貴下には、某先生とは、日頃、御熟懇のよし、何卒、御紹介の勞

を御さり下されたく、御聞きすみの上は、御都合次第、何時にても、小生より御伺ひ申すべくに付、御同行の程、かさねて、御頼み入り申候。

用語

○讀書いたしたく候へども ○入門いたしたく候へども
○知人の紹介なからねばならぬと申すこと故 ○其人につきて、實地に教を請ふにあらざれば ○講義録などにては、なか／＼明に其の意を得ること能はざれば ○是非、研究いたしたき故 ○常に御出人の由に付 ○中間に立たせられたく候

(三〇) ●喫烟を戒むる文(友人の許へ)

烟草の、有害なることは、今更、小生が、多辯するを

要せず、貴兄におきても、よく／＼御承知のこと、且、身體完成いたさざる、丁年未滿のものにありては、殊に害あるごかに承り候。さればにや、國法をもて、丁年未滿の喫烟を嚴禁することに相成り候、承るところ、貴兄には、今に斷然禁烟いたさずごかや、兄の聰明にして如何なるごに候か、これ傳ふるものゝ、あやまれるごなるか、未だ、信疑確定せざるも、果して某氏の言の如くば、君大に改むべきごに存ぜられ候、失禮を顧みず、直言いたし候まゝ、御腹立これなき様、余の衷情

を察し、御採用下され候は、幸榮の事に存じ候。

注意

○直言耳にさかふのとて、かゝる手紙は、過激にわたれば、かへりて、先方の感情を害し、ために、交際をうとんとするの弊におちゐり、或は、ますます、反動をおこさしむるものなれば、婉曲にして、尤も親切に、最も忠實に、其の人を思ふの心を以て、筆をとれば、其のいふところ、卑しと雖も、人を感せしむるものなり。

用語

○無用の長物、害ありて益なき事と存じ候故、○それがため病氣をひきおこすこともありと聞きつれば、○烟草は大に腦をにぶくすることなれば、勉學中の書生にとりては大敵に御座候、○かくては、父母に對して、不孝の極まして國法をやぶることに候へば、○無益に金錢を、烟り

となさんよりも、一篇の書籍を買はんには、其利害の大差ある、雲泥もたゞならざる儀と存せられ候、○たゞに金錢を損ずるのみならず、大に時間を害するものなれば、○烟草購入の費用とては、別に父兄より送らるゝものならねば、其ほるに反ること候、○斷念いたし下されたく、かへすゝも御いさめ申し候、○習慣は、第二の天性、とかいふ格言もあれば、一朝には、禁じがたかるべくも、國禁なれば、如何とも致しがたく、故に節煙するといふことも出来まじく候故、斷然、禁ずるの外なく候、○御怒りなく、一言御聞きとり下されたく候

（三） ●友人の欠席を諫むる文

（其一）

引きつゞき、久しく欠席いたされ、如何なる都合に候か、定めて、家事の都合、又は、病氣などのため、さは、存ぜられ候へども、あまり長きに亘り候はば、學科の進行を追ふも、なか／＼の事にて、御同様、後日困却いたすことなれば、なるべく、御出校の程、希望いたし候。

(其二)

久しく御欠席いたされ候故、大に心配いたし、あちこち聞き正し候ところ、貴兄には、此頃惰心を生じ、大弓、鐵砲などの遊に、餘念なく、其日をくら

し居られ候由、如何なる悪魔におそはれ候か、よく／＼御考へ下されたく、青年は、春時播種のおりに候。播種培養の勞を積まざれば、争てか、美果を收むべき。まして、學期試業も指を屈すれば、兩三月の近きに御座候。然るに、貴重の光陰を、いたづらに費し、加ふるに、金錢を浪費いたし候は、父兄に對し、面目なきこと、存ぜられ候。貴兄、今にして改めざれば、のち臍をかむとも、及ぶまじく、少年は、老ひ易く學成り難し。このこと、よくよく御考へ下され、一日も早く、御出席相願ひたく、

かへすくも祈り奉り候。

注意

○かゝる手紙も過激なるべからず、又あまり其人の欠席をならしたらんには、自棄心を生せしむる恐れあれば、よく注意せらるべし。前の文の注意とてらし合はせんことを望む。

用語

○今までの勉強にことなり、急にかくなれるとは○手に巻をはなたざる御身にして○級中勉強を以て稱せられたる貴君が○健全の智識をして、腐敗せしむるの遊びなにとて、拙なき考にかちいりしぞ○かくては、人の信用を落すことに候へば○光陰は矢の如く、一度さりては、ふたたび、かへらぬものに候へば○大馬は分陰ををしむと申され候○無用の金銭を浪費するは、溝壑に投ずるに異ら

ず候○過を改むるに憚ることなかれど、古人もいへりき○今改めざれば、其災大なるに至らん○前途ますます多望の身なれば○一日も早く御改過の程、願ひ上げ候

(三三) ●遠足に友を誘引する文

このごろ、天気うちつゞき、何となく、のどかに相見え候まゝ、野外に散歩いたし、平日、勉強幽窓の鬱を、なぐさめんこと、いかに、爽快ならんぞ存ぜられ候、就ては、明日、日曜午前第七時を期し、某所に集會、青梅邊まで遠足いたしたく、御誘引申し上げ候。

用語

○天氣朗かにして、出遊の好時節に候○野邊に散歩いた

し候は、いかに精神をなぐさむるかは、多言を要せざることに候。○天氣の工合に依り、出遊いたしたく。○某々君は、すでに賛成に候へば。○彼の地の風光をめぐるは、脱俗の興なることに候。○萬障さしくり御同行の程、ねがひ上げ候。○勉強の都合も、これあるべく候へども。○鬱を散じ腦を養ふは、亦、大効の事に御座候。○待受け申し候。

(三三三) ●汐干狩に友を誘ふ文

日ましに温暖相加はり、天氣も長閑に候故、海岸のおだやかなること、此時を以て最上といたし候。さればにや、むかしより陰曆三月を以て、汐干狩の好期といたし候。近來、天氣都合よろしき故、

來る何日、晴天に候へば、品川海邊まで、汐干の遊いたしたく、御同意の上は、兩國橋ぎはまで、御出下されたく、船を艀して、相まち申すべく候。

用語

○海邊浪おだやかなる時節。○明日は、陰曆三月三日に相當いたし候へば、海岸定めてにぎやかならんと存じ候。○日柄次第、汐干狩いたしたく。○船は某所に艀し、汐干狩有志會の印を相立て置くべく候間。○網を投じ、生魚を捕ふるさま、まことに見事に候。○御思召の程、御通知相願ひたく。○準備の都合もこれあり候故、御一報相煩したく候。

(三四) ●湯治行誘引の文

(其一)

久しく御無音いたし、失禮仕り候。日増しに暑氣相加はり、御病状の程、如何あらせられ候か、小生も、近來、少しく健康を失し候故、さしたることも、これなく候へども、保養のため、箱根塔の澤温泉に入浴を試みたく、承れば、貴兄の如き病氣には、殊の外、効能著しこの事故、御同行相願ひたく、御意得たく候。

(其二)

近來の炎熱釜中にあるが如く、市内倭雑の巷にありては、到底、しのぎがたく候まゝ、せいたくを

氣取るにあらざるも、身體を弱らせ、勉強も出來ざる次第なれば、鹽原へ避暑かたがた入浴いたし、かたはら、少々なりとも書見いたしたく、生等の如き、遠く遊學せる書生にして、歸省せざるもの、にありては、策の上々なるものと考へられ候故、是非、御同道相願ひたく、尤も經濟の點は、都合に依り、民家の一室をかりうけ、自炊いたすも憚らざるここに候。貴意、相伺ひ度、書中、御誘引、申し候。

注意

○かゝる手紙は、遊意同行の念を起さしむるを第一とす

るものなれば、初めの文の如く、湯治の効能などをくはしくしるさんこと大切なり。又、つぎの文の如く、書生的旅行文にありては、出發するの理由など、かくもよし。

用語

○炎熱やくが如きの候 ○七月の炎天、火をもて蒸さるゝが如く ○三伏の炎天 ○如何にしてしのぐべき、暑をさくるの外なく候 ○海岸に近ければ ○大熱獄裡に髣髴たり ○湯て病を治するは、ひとり、温泉の効のみならず、山水の風景、目をたのしましめ、心をなぐさむるの力、あづかりて候 ○殊の外、景致にとめりと承り候

(三五) ●海水浴に同行を催す文

伏炎、天を焦し、日光、人目を眩し、終日、流汗、夜に入

るも、なほ、やまざるの有様、實に堪へがたく、貴下には如何くらし居られ候か、定めて、御苦しみの事と察し入り候。ついでには、避暑のため、海水浴を思ひ立ち、房總沿岸の地に、旅行いたしたく、該地は、風光もよろしく、且、外海のここ故、皮膚を強壯ならしむるは、申すまでもなきことなれば、一週間、もしくは、十日位の豫定を以て、出發いたしたく、御同意下され候はば、日限等御相談のため、小生より御伺ひ申すべく候。

用語

○酷暑のみぎり、如何御くらし遊ばされ候か ○極めて烈

しきあつさ○近年まれなる炎天○該地は、空氣清爽にして、最も身體に適せりと聞き及び候○風光絶佳にして、目をたのしましむるの地にて候○避暑には適當の地にて候へば○汽車の便ある地なれば○二週間、滞留の見込み候○貴下の都合に依り、日限の短縮延長は、いづれにても、よろしく候○急に發足いたし候ては如何○御賛成下され候はば、大幸福の至りに候

(三六) ●納涼に誘ふ文

(其一)

拜啓、昨今の嚴暑、實にたへがたく御起居如何あらせられ候か、本日も早朝よりの炎熱、如何ともしがたき故、日光の没するをまち、某川邊に納涼せんぞ欲し、一舟をやこはせ置き候故、別に急用も御座なく候はゞ、御同舟相願ひたく、御まち申し候。

(其二)

今日の炎熱、近年まれなる酷烈にて、寒暖計、殆ど百度を以て數へんとするの有様、寓居倭小の一室、とても、しのぎがたく候故、夕景より、不忍池畔まで納涼いたしたく、幸ひ今夕は、満月にして、一片の雲影もなく、加ふるに、池中の蓮花十中五六

の綻ほころびもあらんと存ぜられ候故、御同伴ごどうはん相願あひまひ
たく、御誘引ごゆういん申し上げ候。

注意

○かゝる手紙は暑さしのぎがたき故、涼を納めんとにて
出遊するものなれば、其のしのぎかたきさまをいひ、遊意
を催さしむべし。

用語

○劇烈なるあつさ、まことに堪へがたく候 ○酷暑しのぎ
がたく候 ○炎暑烈しく、如何ともいたしかね候 ○墨堤の
涼月、以て涼を納むべく候 ○舟もて、快をとるの外なくと
存じ候に付 ○小舟暑をさくろの策を立て候故 ○目をの
せて遊ぶべく候 ○清風涼月、かねそなはれる、今夕、あだに
過しがたく候 ○夜静にして月白く候へば ○中流に棹し、
舷をたゞきて歌ふの故事も、これあり候へば ○夜中の涼

風日中の苦熱をなぐさむるに足るべければ ○苦境を脱
し、快をとるは ○今宵は満月に相當せることに候へば ○
是非御出遊相願ひたく、さすれば、同氣相寄り、一層の快を
覺え候 ○車をもて御誘引申し候

(三七)

○約束を斷る文

今更、申し上げ候はんは、いごど恐縮のいたり、
候へども、昨夕より腹痛いたし、何そなく力なく、
貪慾不進くわんよくふしんに候まゝ、近隣の醫師いしの診察しんさつを乞ひし
に、全く酷暑くわしよに冒かされたることにて、旅行なごど
は思ひもよらぬ事、加養然るべくと申され候故、
折角、御約束の海水浴、御隨行ごずいかうのこと、本意にもご

り候へども、謝絶仕りたく、かへすくも遺憾には候へども、事情御洞察御ゆるし下されたく、ただく御歸宅の上、珍話拜聴の時を、今よりまつの外なく候。

注意

○かゝる手紙は、先方の感情を害せぬやうに、したゝむべきものなれば、萬やむを得ざる事由を、くはしく、しるして謝絶の意をあらはすべし。いやしくも、曖昧籠絡の言文をもて、辭柄となすべからず、これ信用に關することなればなり。

用語

○かゝる場合に立ちいたるとは、夢想にだも及ばざる事に候。○父上急に遠方まで處用のため出立する事に相成

り、留守職をつとめざるべからざるに至り。○父儀急に病魔におそはれ、離るべからざるに至りたる故。○主治醫の注意をうけたるにつき。○不本意千萬に候へども。○御違約のだん、死罪の至りに候。○御諒察下されたく候。

(三八) ●茶話會出席を、こぼる文

(其一)

御約束申し上げ候茶話會出席の儀、不本意ながら、御断り申したく、實は、かゝるこここは思ひ至らざる故、承諾いたし候處、明日、父の代理をもて親戚まで病氣見舞としてまかり越さざるを得

ざるここに相なりたることなれば、悪しからず、御除名なし下されたく、いづれ貴面の節、萬々謝罪申し上ぐべく候。

(其二)

明日、夏季休業、郷里へ歸省する方々もこれあるにつき、同級生のよしみをもて、ますます友情をこまやかならしむるの主意を以て、茶話會相催されべきにつき、小生も會の一員として、列席いたす考のところ、只今、國元より、至急歸省すべき旨の電報に接し候まゝ、遺憾ながら、諸君の御懇

話、拜聽いたしがたく、直様、行李をこゝのへ午後六時の列車にて、歸國仕候間、御違約、萬死もたゞならず候へども、御ゆるし下されたく、別紙、電文寫し相そへ、謝絶仕り候。

注意

○かゝる手紙は、専ら先方の腹立てなきやうに斷るべし。ことに、一個人と異なり、多人數、會合の席などにありては、とりはげ、注意して、したゝむべし。

用語

○諸君と御高談相願ひ、滿腔の心意相漏したき考のどころ○壯言快語、腹藏なく相樂しみ申す積りの處○人の變化あらかじめ知るを得ず候○右の次第故、會員一同へ御致聲相ねがひ申し候○偏に御宥恕なし下されたく候○

御高免○御宥免○御容赦○御許容

(三九) ●朝顔を贈る文

(其一)

まことに暑さきびしく候ところ、貴兄さだめて、御無事のこそならんこと、賀し上げ候。さて、小子、今朝つねならぬ早起きにて、家人とともに、入谷朝顔見物に参りたるに、例年の如く、生人形なども出来なかく、賑はしく候。此一鉢は、あまり見受けざる種類にて、輪も大きく、花の色も普通のもの、異なる故、二鉢かひ求め、歸宅いたし候。即ち

一鉢、貴覽に入れ候まゝ、御慰みに供せられ候はば幸甚。

(其二)

朝顔につるべこられて貰ひ水さは、古人の名句にして、如何に培養のたのしかりしを思はれ申し候。愚老も、古人の雅致にならひ、本年はじめて培養いたし候ひしに、この頃やうく、一二輪づつ、さき初め候へども、培養法、其よろしきを得ざるこそなれば、世のものに比すれば、甚だ粗末にて、花輪も小さく候へども、こは某氏より贈られ

たる種にして、花の模様色彩などは、世のつねのものに異るるか申され候故、種取りとして、この一鉢、御高覽に供し候まゝ、御笑留下され候へば、大慶の至りに候。

注意

○かゝる手紙には、まづ粗末のものなることを述べ、又、飲食物なれば、些少なれば、恐れ入るが、御目にかけて申すといふが如く、卑下して、認むべし、或ものは曰く、已れ粗末と思ひながら、他人に贈るは、無禮なれば、粗末なる品とかくなど、わるしと、論ずるも、こは文字に拘泥して、いふことにて、余等、この論はとらず。

用語

○今朝、晨起、友人某氏と同行、見物いたし候○本年は殊の

外、上出来にして、花の大なること、先年の比にあらず○朝顔も培養によりては、日中なほ、ちらざる古例もこれあり候○人も養生よろしく候へば、長壽を保つべく○世の中の事をすてたる身なれば、樂みがてら、培養いたし候○朝早く起きて、丹精するは、衛生にもかなひ候故○なか〜美しきものは、得がたく候○御慰みに供し候。

(四〇) ●國産物を贈る文

(其二)

不在中は、萬端御心そへ下され、まことに、ありがたく、御禮申し上げ候。私事、昨夜、無事、歸宅いたし候まゝ、憚ながら、御安心下されたく、この果物は、

該地國産の一に數へらるゝもの、あまり、つまらぬものなれども、少々、御分配いたし候。いづれ、參上、いろく、御はなし申し上ぐべく候。

(其二) 友人のもとへ

残暑未だ甚しく、貴兄おさはりもなく候や、小子、只今、國元より上り候、休業前は、いろく、失敬仕り、謝し上げ候。其後、一片の音信をも申さゞりしこと、御ゆるし下さるべく候。この果物は、生國の名産とは、失禮な申し分なれど、兎に角、名物なれば、少々携へ來り候故、使にもたせ、御目にかけて候。

間、風味下されたく、夕景、御尋ねいたすべく、御在宿を祈り申し候。

用語

○珍しからず候へども ○珍果とは申しがたく候へども
○御好みの由うけたまはり候まゝ ○御約束に依り、少々持参いたし候 ○かの地の名物のよしなれば、買ひ求めたる次第故 ○この焼物は、我國の特産なれば ○庭前に多少植附ありたるに依り ○御令息のかなぐさみに供し候

(四一) 同返事

只今は、御國の名産、澤山、御惠贈下され、ありがたく謝し奉り候。當地にては、實にめづらしく、たまたまこれあり候も、其品質、劣等にして、味ひあし

く、頂戴の果物とは比較なりがたく、直様拜味仕り候ところ、まことに風味よろしく、老人はじめ、子供のよろこび一方ならず候、御厚志の程かへすべくも、御禮仕り候。

注意

○かゝる手紙には、品性の佳良なること、風味よきこと、珍物なること、物によりて用語も異なれど、せんずるところ、贈物の美なる意を充分にのべて、謝するは禮なり、かりにも、不味、不善等の意を、もらすべからず。

用語

○何より珍らしき品 ○風味のべがたく ○賞玩一方ならず候 ○感賞仕り候 ○當地にては得がたき品にて候 ○何よりの珍物、とても、金錢にては得がたく候

(四二) 魚類を贈る文

私儀、今日、海邊に出かけ、漁事いたし、品川沖に至りて、網を投じたるに、幸ひ、この魚相捕へ候に付、貴覽に入れ申候間、御笑納下されたく、あまり輕少にては、づかしき次第なれど、沖合は、少々、風模様ありて、投網、自由ならず、至て不漁に候、他日、また、相補ひ申すべく候。

用語

○本日、何川邊まで釣魚いたしたるに ○友人と投網相催し候ところ、意外に得物あり ○郷里海岸より捕へたる品、只今、到着いたしたるに付 ○珍らしといふにあらねど、生かし置きたる故、新鮮に候 ○かへりて、御料理の手數なら

んも〇一籠贈呈仕り候

(四三) ●縦覧券を贈る文

來二拾日より、上野公園内に開會せらるべき美術展覽會縦覧券、數葉友人より贈られたるにつき、兩三葉御分配申し候まゝ、御閑暇にも候はゞ、御出會如何、今回は殊の外、出品數多く、隨分、參考にも相なり、日本美術の進歩の大體をも、窺ひ知らるゝとて、なかゝの評判に候へば、御同行相願ひ、御高評、拜聽仕りたく候。

用語

〇此度、後樂園拜觀をさしゆるさるゝとて拜觀券贈られ

たれば〇書畫展覽會開會〇常に縦覧をゆるさゝること故〇一見、百聞に如かずと申し候故〇情狀を觀察すること、實見にしかざれば〇御遊覽遊ばされ候ては如何

(四四) ●兵役に入る人に送る文

貴兄には、こたび、徴兵適齡検査合格にて、近衛第一師團歩兵に編入せられ、近日入營いたさるゝ由承り候、つね〴〵、御希望のこご故、さぞ〴〵御満足のこごならんご、賀し奉り候。君には、平日、身體強健にして、勇氣あり、軍人には、最も適任ご、批評いたし居り候、小生が、殊更、申すまでもなく候

へども、忠勤身を國君にいたし、規律を守り、國威をかゝやかさんば、軍人の本分に候へば、御入營の上は、奮發勉勵あらん、こここそ望ましく候、國家のため、折角御自愛なされたく候。

注意

○かゝる手紙には、勇壯快轄にして、悲哀のことばなく、志氣を振ひ起さしむるが如くなるを、よしとす。されど、いたずらに、大いなる任を負はしめ、又は、大名をわけ、身命をなげうつなどのことを、のぞむは、わるし。

用語

○何師團へ入營 ○某鎮守府へ入隊 ○徴兵に應じ兵役に服するは國民の義務、男子の本分なれば ○従前は兵役に入るを忌む輩もこれあり ○かくては、國君に不忠と申す

べく ○體格強壯、甲種の合格 ○軍隊は國威の發展に大勢力あることなれば ○軍人は國家の保障に候へば ○海軍の方の消長は、國際間の交誼に大關係あることなれば ○貴兄には、特に、海軍御志望なされ ○他の兵と異り、志願兵に候へば ○一年志願兵採用に相なり ○國家のため、貴兄のため、祝し奉り候 ○國家に盡すの任あることに候へば ○無事歸郷の程いのり申し候

(四五) ●同返事

時下、ますます御清適、欣賀奉り候。小生、今般、入營いたし候につきては、御丁寧なる御祝ひ、御親切なる教訓、ありがたく、拜受仕り、決して、違背申さ

ず、日常の勤務は、申すまでもなく、一朝事あるの日は、國君のため、忠勤をつくすの心意、忘れまじく候まゝ、御安心下されたく、先は御答かたぐ、御禮申しのべ候。

注意

○かゝる手紙は、つゝしみて、教へを奉ずるの意をのべ、謝禮するをよしとす。いたづらに、身に行ひがたきそらごと、望むべからざる希望などを答ふるは、益なきことゝ知るべし。

用語

○たゞく御教誨にしたがひ申すべく○小生、魯鈍、貴下の御希望は、つくしがたからんと、憂慮に堪へず候○力の及ぶ限りは、盡す所存に候○徒に名を軍籍に置き、其日を過すの外なしと杞憂いたし候○小生の如きもの入營いた

し候ても、かへりて、軍籍をけがすと申すものにて候○偏に勤勉、御ことばに報ひ申すべく候

(四六) ●洋行する人に送る文

貴兄、官命くわんめいに依り、實地取調べのため、英・佛・獨・三國へ御渡航ごわたうかうあそばさる旨、新聞紙上にて承知仕り候。御出發の日限は、如何に候か、彼の地に至り、君の活眼くわつがんを以て、御視察ごしきさつ、御調査ごてうさいたされ候は、明瞭めいりやう精確せいこく、國家に益すること、大ならんご豫期よきいたし候。就ては、氣候風土も相變ることなれば、御身を御大切にあそばされたく、無事御歸朝ごきてうの程ほど鶴

首御待ち申し候以上。

注意

○かゝる手紙は、其人品の適任なるを述べ、國家の有益なるを祈し、氣候の變化あれば、攝養以て身體の壯健を祈るを本旨とす。

用語

○學術研究のため、斯道に名ある英獨へ、御留學あそばされ○歐州文明を以て名ある某國○航海術研究のため○商工業、取調べのため○積年の御希望に候へば○風土の差あるを以て、健康を損せざらんやう御心がけ○人情相ことなり○世界に有名なれば○貴兄の渡航は、學を研くにあれば御うらやましく存候○御攝養なされたく

(四七) ●同 返 事

略儀ながら、書面を以て、御禮、旁御答へ申し上げ

候。さて、小生こたび、官命に依り、渡歐いたし候。ここに相成候へども、御存じの如く、魯鈍にして、其敏活なる文明國人に對し、應對するも、覺束なきに、其調査事項の廣大なる、到底、充分の責任をつくしがたく、國家を益するといふこと、思ひも寄らぬ事故、たゞ、渡歐するといふ名のみに候へば、心中、慚愧の外なく候。出發期日は、本月末、解覽の某號便船に投ずる心組に御座候。尙、日限定次第御急報申し上ぐべく候。

注意

○かゝる返書は、辭を卑ふし、たゞ其責任をつくしがたき

を憂ふるの意を、のぶるを大切とす。かならずく洋行すること、ほこるべからず、かりにも、其意をもらすべからず。

用語

○このたび修學のため、渡歐することに相成り候へども
○性質愚かなる小弟故○かへりて耻かしき次第に候○
たい少しく見聞をひろむることが、最上と存せられ候○
斯道に利することなど思ひも及ばざる儀に候○御教示
に依り、身體は養生仕るべく候○彼地の模様等、拙筆ながら、通信申し上げべく候

(四八) ●寫眞を送る文

指を屈して數ふれば、はや二たごせのむかしとなりぬ。花の朝月の夕、手を携へたる親友のむかし

し思へば、なつかしく、一たび逢ふて古へを語り
あはばやと思ふこと、幾たびか、これあり候へども、
幾里へだつる今の空、何さて君は余をすて、
上京せるにやと、うらむことさへたびくなれど、
父母のゆるさぬ身にしあれば、いたしかたなく、
偏に君の卒業の上、歸國をまつの外なく候。此
寫眞粗末なれど、近來、撮影せしものなれば、御手
許まで送り申し候まゝ、むかしの友と思し召し
座右の友といたされ候は、本懐のいたりに御
座候。

注意

○かゝる手紙は、親しさ、やるかたなき故、寫眞を送るものなれば、古へ相親しかりし有様、又は己れの今の有様など申しやるは、いと面白し。されど、其關係と、時のうつりかはりどに依り、いろく、かきざまありと知るべし。

用語

○拙なき筆にて申しこし候。○今はむかし、同窓の砌、かたりし其言の葉、今、尙、耳にあるが如く。○琴瑟も、たいならざる親しの友や。○春の花、秋の紅葉に、古へを思ふ、我身のかなしさは。○如何にや、くらしたまふらん。○御歸省をのみ相待ち申し候。○古山の夢、定めて、忘れたまふまじ。○しほしのひまも、君の事、わすることなく候。

(四九)

●診断書を請ふ文

承れば、脚氣病は、轉地療養いたし候へば、速に全

快するとかや、つきては、至急歸國いたしたく候へども、主治醫の診断書これなく候ては、學校にて許可せざるこそ故、御手数ながら、一通御認め相なりたく候。

用語

○私一週間ばかり欠席いたしたきにつき。○止むを得ざる事故のため出仕いたしがたく。○父事治療相うけ居り候ところ、昨夜午前、十時死去いたしたるに付。○埋葬の規定もこれある故。○御したゝめ、此者に御渡し下されたく候。

(五〇)

●數學教授を請ふ文

小子こそ、御承知の如く、まことに、數學にうごく、

われながら、閉口いたし候。さりさて、自棄すべからざる儀と存じ候まゝ、御多忙の御身、加ふるに生の如きもの、まことに、うるさく候はんが、退校後一二時間、尊宅にて御教授相願ひたく、偏に願ひ上げ候。

注意

○かゝる手紙は、特別に教授を請ふものなれば、殊更、辭を卑ふし、其不進のかどをのべ、是非、教へを請ふの意を、ねもころにのぶべし。

用語

○數學は、必須の學術に候故○余の最も困難を究むることに候へば○目今、急務に候へば○御暇なき御身なるを○御氣の毒千萬なれど○學科の餘暇もて、御教授相願ひ

たく○愚鈍にして、いたし方なきも○是非々々御聞きすみ相願ひたく候

(五二) ●揮毫依頼の文

(其一)

私儀、生來惡筆にて、愧入り候故、習字いたしたく、版物などにては、上達遅しと承り候につき、恐縮の至りに候へども、此折手本に、楷行草三體御揮毫相願ひたく、參上、ごく御依頼申し上ぐべきなれど、先生に、かく勝手を申し候は、大に憚ること故、御無禮ながら、書中を以て相願ひ申し候。

(其二)

御尊體ごそんたいますく御清穆ごせいぼく欣賀きんが此事に候。さて、小弟
 國元くにもとにて、近頃ちかごろ祖父そふの別邸べつていとして、一小室いっせうしつを營いとなみ
 たるに、落成らくせきいたし候由よしなれど、未だ扁額へんがくの一面
 もなく、物さびしき故、是非、先生の御揮毫ごきぼを請まねひ、
 届いたくべき旨たま、申しこされ候まをにつき、恐れ多おそきこと
 ながら、御清閑ごせいげんのみぎり、何卒なにとぞ、御流墨ごりゅうぼく相願あひまひたく、
 絹地相ぬいぢあひまそへ、かへすく御懇望ごこんぼう仕つかり候。

注意

○かゝることは自身出頭して、ねんごろに、請ふべきが禮
 なり。されど、口頭にては、目上に對し、はやかかることもあれ

ば、止むなく手紙もて申しやるなり。故に、よくく無禮を
 謝すべきなり。

用語

○筆不調方にて○人の前にて筆執ること、甚だ、はぢ入る
 次第○第一、書は其人柄をあらはすものなれば○先生の
 書風夙むかしにしたひ申し候○拙宅せつたく、離座敷りざしき一棟、建築けんちくいたし候
 ○半折一幅○屏風一對○書畫は室内粧飾しやうじやくに欠くべから
 ざるものなれば○大に風致ふうしをそへ申すものなれば○い
 と室内の趣おもむききをそへ○物足らぬ心地して○先生の筆、天
 下に名あれば○御意ごいの向ふ時にてよろしく

(五二) ●古書の鑑定を請ふ文

昨日、骨董店こつどうてんにて、古書畫こしょゑ閱覽いっげんせし處、凡眼はんがんにては、

分り申さず候も、筆力俊秀、墨色清麗にして、如何にも眞にせまるが如く見受けられたる故、買ひ求めたる山水の畫一幅、名は文晁と、しるしあるも、其眞疑判明せず、御達道の先生のこそなれば、一見明瞭のこそ、存じ候故、使にもたせ差し上げ候ま、御鑑定の程偏に希ひ上げ候。

注意

○かゝる手紙は、其人の堪能なるを信じて、鑑定を乞ふものなれば、己もの知り顔に、某々の筆を斷案をくだすなとのことあるべからず。

用語

○下手の横すぎにて、古畫一幅買ひ求め候○古畫のうり物見當り候故○ふと坊間にて見うけ候につき○滅茶に

買ひ求め○御一笑に附せられんも○俗眼にて見立てたることなれば○俊秀の眼力もて○活眼を以て御判斷なし下されたく○此軸は、某氏の筆なりといふにまかせて

(五三) ●病氣見舞の文

(其一)

先日来、御病氣にて臥床のこのこと、友人より承り候。昨今は、如何なる容體にや、兎角、不順の氣候故、餘程、御注意なされたく、無理なるこそ一切いたさず、よく御快癒の上、出席いたし候様、御見舞かたぐ御注意申し上げ候。

(其二)

うけたまはれば、父上様、御病氣にて、打ち臥し居り候由、つれづれ、御孝心ふかき御身、さぞかし、御心配いたされ候はんと、察し入り申し候。折角御介抱、御手あつく遊ばされ、一日も早く御全快なされ候様、祈り奉り候。御見舞として、鶏卵一折、御目にかけて候ま、御受納下されたく候。

注意

○友人など、兎角年少かき人は、病氣を恐れず、やゝもすれば、醫師の注意もやぶることあれば、これ等の事なきやう、注意をそへ、よく療養すべきことをしたため、目上の病氣

などには、介抱怠らざるやう、看病すべきこと、氣候あしければ、大切にすべきことなどを申すときは、注意深き人たること、親切なること、おのづから、あらはるゝものなり、面して、贈り物は滋養物をゑらぶべし。

用語

○御病狀如何に候か ○少しは起き出ること、出来申すべしか ○よく、御保養遊ばされたく ○醫師の注意を守り ○一日も早く診察を乞ふべく ○治療専一に候 ○御手厚き御介抱 ○なか、御難症と承り ○御一同御案じの事と察し入り候 ○御輕傷の趣 ○御子息様はからざる大怪我にて ○ビスケット ○葡萄酒 ○牛酪 ○スコット乳菓

(五四) ●同返事

(其一)

小弟の病氣、御見舞下され、御親切なる御注意にあづかり、まことにく、ありがたく謝し奉り候。病氣は、次第に快方に赴き候故、兩三日も経過いたし候へば、起き出づることも出来申すべく、先は御答のみ。

(其二)

父の病氣、御見舞ひ下され、且つ何よりの珍物、御惠贈にあづかり、かへすくも、ありがたく、病人もまことに快く頂戴いたし候。殊に、滋養品、病體に相適し、拙家一同、御厚情の程、謝し居り申し候。

御蔭に依り、一日ごごとに、快方に赴き、昨今、しごれに一二時間位は、座し居る次第故、御安心下されたく、右、御禮まで頓首。

注意

○かゝる手紙には、充分厚謝し、くはしく病狀をしるしやるべし。認め方も、ていねいにし、薄墨などにて、はしり書きなど、なすべからず。

用語

○一時、随分熱度も高かりしが、○近來は殆ど復舊せるが如く考へられ、○長々の病氣のところ、○昨今は快方を覺え、○一兩日を経たらんには、薬を服せざるも、よろしと申され候、○決して身體を粗略にいたすまじく、○御注意に依り、○介抱いたすべく、○御放念下されたく

(五五) ○洋行の留守見舞の文

兎角、多忙にござりませぬ、御無沙汰がちなにて、恐縮の至りに候。御主人公、御渡歐の後、は、定めて、御淋しきことならんご、察し申し候。しかし御歸朝の上は、一段の名譽を高むることに候へば、一時のつれくは、御しのび下されたく候。實は、たびたび御伺ひ、御なぐさめ申すべかりしを、女の身にて、家事の整理に、いこまなく、御無禮の程、御ゆるし遊ばされたく候。御留守中、官衙の御用も御座候はゞ、てまへ方に命じ、御代理いたさせ候様、御

申しこし相なりたく、先は、御見舞までかしこ。

注意

○かゝる手紙は、留守中の心さびしさをなぐさむるを主として、のべ併せて用事もあらば、助手すべきことをものぶるを普通と知るべし。又、無聊をなぐさむるため、繪畫などを贈るもよし。

用語

○尊大人、御出立の後、は、如何御くらし遊ばされ候か。○歐米漫遊の途にのぼり。○官命に依り、兵事取調べのため渡歐なされ。○學問研究のため御洋行なされ。○御無聊の事と察し申し候。○たびく訪問いたすべきのところ。○かれこれ多端。○等閑の段、御海容下されたく。○留守中、御用多きこと。○内外の御用をみたすことに候へば。○相當の御用も御座候はゞ。○御なぐさみに、此名所寫眞、御覽に

入れ申し候○御ひまを偷み御來車下されたく

(五六) ●欠席届差出し方を頼む文

(其一)

昨夜より腹痛いたし、何分とも、歩行に苦しみ、本
出日席いたしがたく候故、御氣の毒の次第なれ
ど、別紙欠席届、受持先生の手許まで、御さし出し
下されたく、願ひ上げ候。

(其二)

毎々、御來訪下され、ありがたく御厚志のほど感
謝の至りに堪へず候。昨今は、非常に快く相なり、

痛みも去り、隨て、熱度も下りたる次第故、御安心
下されたく候。今一週間も経過いたし候へば、復
舊するならんこ、醫師も申され候。故別紙欠席届
及、診断書、相添へ、さし上げ候間、學校の掛員まで、
御届け下されたく、同級諸君へも、よろしく願ひ
上げ候

用語

○止むを得ざる事故、出来いたし候につき○父命に依り、
某所まで出頭するにつき○兩三日間、出校いたしがたく
○貴兄登校の序でを以て○別封の書狀○毎度御見舞下
され、兄の御厚情、兩親も、感鳴いたし居り候○快方の見込
み故○今一週間も、経續いたし候は、○御届け方、御煩し

申し候

(五七) ●祭日に友を招ぐ文

不幸にして、本日は雨天に相なり、御約束の郊外散歩も、いたしがたく、遺憾やるかたなし、さりごと、いさよろこぶべき神嘗祭日なれば、うつく日を過さんも、本意ならねば、友人二三を、小生宅に會し、何か面白き談論を戦はしたく、本月發行の少年世界も、郵送せられあらば、順讀するなど、興味あること、存せられ候ま、御出浮下されたく、相まち申し候。

注意

○小人閑居すれば不善をなすといふ古語もあれば、かゝる會合は、不善に流れやすきものなり、よく注意すべし。

用語

○庭の紅葉も色めきたれば○雨天にて外出もなりがたければ○祭日の祝ひに赤飯さし上げたく候ま、○用意いたしたれば、○祭日を祝ひ、友人四五と茶話會相催したく○かるた遊いたしたく○福引の餘興も面白きことなれば○愚父も御仲間申すとの事○御なぐさみいたしたく

(五八) ●月見に友を招ぐ文

今夕は中秋、即ち十五夜、満月に候へば、雲こそなけれ、一刻千金の良夜なれば、玉兔、天空に躍るの

様如何に美事にやある、されば古より文人騷客、詩に歌に、めづるもの多し。就ては拙樓は幸ひ、さほる、蔭もなければ、觀月に適し候故、御出を請ひ、ともに天真を愛したく、殊に、御得意の手風琴吹奏相願ひたく、御出のほど、まらうけ申し候。

用語

○今宵は、陰曆八月十五夜に相當すること故○晴天に候へば、看月に好都合に御座候○幸ひ一片の雲影なく○皎月、中天にかゝるさま○日毎に月はあれども此月は○白皓○相かゝりやき○相照し○清風晴月○風徐に月いと白く○一層の興味○相吟じ相うたふは如何に樂しからずや○粗葉相とゝのへ○精神爽快を覺え申し候

(五九) ●同返事

貴墨拜誦、仰の如く、陰曆中秋にて、且、滿天、晴朗、一片の雲影なければ、さぞ、看月の眞味を知らるべく、殊に貴樓は、開豁なれば、最も、好都合に御座候、御招ぎに應じ、早速、御伺ひ、餘興として、下手の手風琴、吹奏いたし、御熟練の清笛、御合奏、相ねがふべく候。

注意

○かゝる手紙は、直様、認むるものなれば、手みじかに、可否を答ふべし、もし、不參することなれば、其まゝを必ず、しるすべきなり。

用語

○わざ／＼御まねぎ下され○御尊堂○御瑤臺○遠慮をかへりみず○御指定の時刻には必ず参堂仕るべく○大畧かくの如くに候○右は御答まで勿々

(六〇) ●開校式に友を招く文

(其一)

かねて工事着手中なりし拙校、いよ／＼落成、明日を以て、開校の式を舉行せられ候。つきては、餘興として、烟火、生徒の競技等も、これあることにつき、當日御見物相なりたく、先は、御招待まで、勿々。

(其二)

貴兄等、校友として、本校移轉改築の御運動に依り、先年來、着手いたしたる工事、いよ／＼竣成、來る何日、開校式、執行いたされ候儀につき、當日、御列席相成たく、此段、御案内に及び候。

用語

○かねて御賛成を乞ひし○某校新築の工事○先輩の御盡力に依り○一方ならぬ奔走により○竣工○正式○執行○施行○御参列○御貴臨相なりたく○御來校

(六一) ●任官披露に友を招く文

(其一)

小生、今般、中學卒業の資格を以て、判任文官任用令に依り、内務省屬に採用いたされ、昨日、辭令に相接し候まゝ、辱知諸友に披露のため、茶菓の饗應いたしたく、就ては、本日午後二時、拙宅まで御枉駕下されたく、御まち申し上げ候。

(其二)

小生、今回、計らずも、文官高等試験に及第いたし、某縣參事官、就職の辭令領収、不日、赴任の都合にこれあり候故、明日、右披露のため、一獻さし上げたく、萬障御繰り合はせ、午後五時を期し、拙家まで、御來車下されたく候。

て、御來車下されたく候。

用語

○かねて運動いたしたる仕官の儀 ○某省屬官に ○引き續き重職相なり ○昇級の辭令 ○拜領いたし候 ○御發表かた／＼御別れのため ○小宴相開き ○一獻相催し ○ゆる／＼御話し申したく ○御來臨

(六二) ●茸狩を催す文

兩三日の暖雨にて、松茸、非常に發生せる旨、某氏より通知ありたれば、明々日曜を卜し、一日茸狩り相催したく、尤も、當日雨天なれば、次回の日曜にいたしたく、御出遊の程御促し申し候。

用語

○日外御はなし申したる松茸狩の儀○雨天なりしたため、急に發生せるよし○散歩がてら茸狩いたしたく○某地は初茸に適せる故○相催したく

(六三) 紅葉見物を催す文

瀧の川の紅葉見頃なりこの報友人某氏より來れり某氏は前日曜探見せる由友人にのみ其樂みをつくされ候ては遺憾なれば來る日曜に杖を曳かんぞ存じ候貴兄にして同意を表せられ候はゞ生等の本懐之に過ぎず候。

用語

○紅葉霜に染みて一層の色をそへ○霜ふるまゝに山の紅葉錦をなして○山姫の織り出す紅葉の錦○いと見頃

なりと○友人五六を携へ平日の鬱を散せばやと思ひ○郊外に杖を曳くは一段の興味あること故○我々君のため先拂ひせん

(六四) 送別會を催す文

(其二)

諸君の御承知の如く某々君はこのたび第一高等中學へ入校許可と相成不日出發するここに候へば我々校友たるもの其別を惜むの情轉禁ずる能はざるなりつきては何日を以て送別會相催したく別項御覽の上御賛成相願ひたく候。

(其二)

諸君いよく御壯榮賀し奉り候。さて、學友某君は、今般某公使に隨從いたし、米國へ渡航いたすことに相なり候に付、其光榮を祝するにも、同氏の無事を祈らんとため、何日午後何時より、上野某樓に於て、送別會相開きたく候間、何卒御參會相なりたく、尙準備の都合も、これある故、御一報を煩したく候。尤も、會費一人分金壹圓當日御持參の事、

注意

○かゝる手紙は、なるべく多人數の賛成を欲するものな

れば、衆人の心情を害せぬやうに、かゝんことをのぞむ。又、會費場所時刻等は、あきらかに、したゝむべし。

用語

○海外留學のため出帆 ○商業上 ○醫術研究のため ○其の行を祝し併せて其別を惜まんため ○名譽を祝せんため ○我校の名譽なれば ○會場は某樓と相定め候故 ○聊小宴を催したく ○送別のしるしとして、茶菓の馳走いたしたく ○再會は今より五年の後なれば ○萬事御打合せ ○希望いたし候

(六五) ●秋季運動會を發企する文

氣候大に定りたれば、例年の通り、本校秋季大運動會を舉行いたしたく、左の事項、御熟覽の上、御

賛成相なりたく候、

- 一 會場。 上野公園
- 一 會日。 十月三日
- 一 會費。 貯金會費より支辨のこゝ
- 一 其他準備方法等は、委員に一任する事

注意

○かゝる手紙は、例に依り、其の校に於て、年々舉行するこゝとなれば、あまり、くたくしきよりも、手短かにして、明瞭なるを、よしとする故、箇條書の如く、一見知りやすく、且、其梗概をあげんことを、つとむべし。

用語

○某地運動會のこと○例に依り、我々發企いたし候に付○愈何日と決定いたしたるに付○運動委員は左記の如

く相定め○種々協議いたしたく○雨天順延○雨天の時は、別に日取を定むべく

(六六) ●運動會案内狀

愈御清適賀し奉り候。さて、例年の通り、來る何日を以て、上野公園に於て、秋季運動會を執行いたし候につき、當日、御出會相なりたく、別紙運動種目、及び、入場券相を、御案内に及び候。

追て、當日、雨天の時は、別に御通知申すべく候。

注意

○運動會の何たることは、皆々承知せること故、かゝる手紙は、ながたらしく、したゝめざるを、よしとす、ことに、意を

用ふべきは、雨天の時の方法を明にせざるべからず。

用語

○各位ますく御清榮○御參會なし下されたく○雨天順延の事に候

(六七) ●菊見に友を誘ふ文

秋色、眠をもよほし、菊花、大に笑ふの時期、園子阪の人工的菊花、いと盛なる趣なれば、明日曜午後一時より、歩を同地に向けられたく、御意は如何、御誘引申し上げ候。

用語

○菊花の艶美、愛すべく候○人工を加へたるも亦美事に御座候○世人の玩賞することなれば○なかく宏大な仕掛けに候○不都合に候はずば○御同伴を願ひたく

(六八) ●菊花を贈る文

菊は花の隠逸なるものなれど、其よく久しきに堪ゆるこ、其色の美なるこは、亦大に賞すべく候。さて、手入、不十分なりし故、粗末なれど、一株、貴覽に入れ候まゝ、机前の御慰こもならば幸甚。匆匆

用語

○庭前の雛菊、紅白とりませ○春より手入いたし候菊花、漸くさきそめ候○芳輪大ならず候へとも○種類異なれば○数年培養せるも○見事に出来申さず○數種取り合はせ○御老母様の御なぐさみに○持たせさし上げ候

(六九) ●懇親會を催す文

今回同郷人の友情を厚ふせんため、某縣學生の一大懇親會を催し、來る何日、午後三時、上野精養軒に於て、開會候條、萬障さしくり、御來會なし下されたく、會費金壹圓半、當日御持參下されたく、準備の都合も、これあり候故、御出會の有無、御報相願ひたく候。

用語

○同縣人 ○同國人 ○同窓 ○同僚 ○同校生徒 ○校友と在校とを問はず ○福引の餘興、これあるにつき、名題撰定、御持參相願ひたく ○配膳の都合もこれあり候故 ○御案内漏も、これあるべきに付、御誘引下されたく

(七〇) ●福引に友を集ふ文

兎角雨天がちにて、外出散歩のなぐさみ、いたしかたく、幽窓の下に、くらし候は、面白からざる故、今夕、友人と福引の樂みいたしたく候、就ては、題目、御擇び、品物御持參にて、小生の寓まで、御集ひ下されたく候。

注意

○かゝる手紙は、徒然をうちけさんどにて、催するものなれば、すべての人が無聊を感じる時に、あらざれば、興なきものなれば、其さまを言ひやるべし。

用語

○連日の雨天、あき果て申し候 ○雨中、御困難ならんも ○某々氏は既に來れば ○如何にして淋さをなぐさめたまふらん ○此狀、披見次第 ○題數も意外に出來たれば ○あ

まり高價の物を用ゐず○簡短にして興味あるもの

(七一) 忘年會を催す文

(其一)

本年も最早數日を餘すのみなれば、忘年會と稱し、茶菓の飲食を催し、一年中の苦みを洗はんとため、談話、福引等の娛樂いたしたく、御同意に候はば、明日午後三時、某所まで御參會相なりたく候。尤も會費金拾五錢と御承知下されたく候。

(其二)

寒氣甚しく候處、ますく御壯榮、賀し奉り候。本

年も追々月迫、さぞかし御繁多の事と察し申し候。さて例年の通り、同志相會し、忘年會開會いたし、たく不肖等、發企仕り御出會の程、御勸誘申し上げ候、尙、通知漏の諸君へは、宜しく御誘引相なりたく候。

- 一 會場。 上野山下松田
- 一 會費。 金壹圓五拾錢
- 一 會期。 十二月廿五日午後四時

注意

○始めの文の如く、日々相寄る友人間にありては、時候の挨拶などをかゝざるをよしとすれど、後の如きは一應挨拶

授をのぶるをよしとす。

用語

○光陰矢の如くにて、早一年も僅に相成り申し候。○歳月
さしせまり。○最早月迫いたし。○昨年に比すれば、一層の
早さを覺え。○繁劇の閑を偷み。○一年の苦惱を忘れたく
○極めて御迷惑とは存ずれど、御交際として。○御返書相
煩したく

(七二) ●歳暮見舞の文

拜啓、先生には、さぞく御繁劇はんげきのこと、存じ入
り候。今年も、餘日なく、御全家御一同、御揃ひ御壯
榮ならんご賀し奉り候。此鮭一尾、歳暮御見舞の
しるしまでに、貴覽に供し候まゝ、御笑留下され

たく候、餘は、新春拜顔の時に、ゆづり申し候。

注意

○年末は、たれもみな、用多きものなれば、かゝる手紙には、
かならず、多忙の挨拶をなすは禮なり。且、日本の舊慣とし
て、恩人、又は、昵懇の人々には、物など贈ることなれば、品物
の多きをよしとせず、粗末輕少なりとも、たゞ其意思をあ
らはせば、足るものなれば、其こゝろもて、物など贈るは、あ
ながち、わるしといふべからず。

用語

○烈寒の候、定めて御壯健にあらせられ。○歲月流るゝが
如く、早、年末に相なり。○常々御多用の御身さぞかし、寸暇
もなく。○併し英雄は、閑日月ありとか聞き及び候故。○歳
末のしるしとして。○相變らず御交誼相願ひたく。○罷り
こすべきなれど。○御老母様はじめ、御令閨様へもよろし

(七三) ●同返事

(其二)

貴命の如く、本年も指を屈すれば、數日に過ぎず、人々の奔走、一と方ならず候、小生も亦、俗用にとりまぎれ、短き日を短かくくらし居る始末、英雄の閑日月、ゆめにだも會せず候。さて、わざと御見舞をかふむり、加ふるに、結構なる品、御惠み下され、ありがたく、拜味いたすべく候、先は、御禮かたと、御答まで、早々。

(其二)

玉簡拜誦命の如く、歲月匆匆、抄末の期と相なり、御同様、繁忙のここに候。兎角、事故に取り紛れ、未だ其禮をつくさざるころ、先んじて御見舞を蒙り、感愧の至り、そのうち、拙家よりも相伺ひ申すべけれど、取り敢へず、御禮申し上げ候。

用語

○歲月、水の流るゝが如く ○年光相迫り申し候 ○歳華、矢の如く、あます所、僅に一日と相なり候 ○一年の早き一瞬間と相覺え候 ○歳暮の御祝ひとして ○佳品、惠與にあづかり ○何れ、こなたよりも御伺ひ申すべく ○欠禮仕り ○畧儀ながら、貴使に附し

(七四) ●新年を賀する文

(其一)

謹賀新年。 奉賀新禧。 恭賀新年。
恭しく新年を賀し奉る。
あらたまの年の始めを祝し奉る。

(其二)

新年の御慶目出たく申し納め候、先以て、御尊堂御機嫌よく御超歳なされ、賀し奉り候。次に、拙家無異、加年仕り候間、御安心下されたく、尙、本年も、

舊に倍し、御交誼の程、祈り奉り候。先は、新年の御祝ひまで、匆匆々々。

注意

○近來は、新年の祝詞、葉書にて辨ずることなれば、其一として、普通用ゐらるゝ言、數種を列擧せり、故に、葉書にしたたむる時は、其や、何なりとも一句を書すれば可なり、又併せて倍舊の御交誼を祈ると小書きすることもあり。

用語

○改年 ○新年 ○新禧 ○新歲 ○年甫 ○新正 ○御よろこび申し候 ○御加年なされ ○御越年あそばされ ○新春の御慶 ○萬里同様 ○際限あるべからず候 ○新年の佳慶 ○御壽を加へられ ○平素の疎情を謝す ○年甫の祝詞 ○尊家一統 ○永陽の時を期し申し候

(七五) ●同返事

貴書拜讀、改年の御よろこび、御同然、限りあるべからず候。先づ以て、貴家御一同、御清福、御越年なされ候由、恭賀仕り候。弊堂も、亦、無事、加齢いたし候まゝ、御放念下されたく、こなたより祝詞申しのぶべく、の處、返りて尊書に接し、恐縮の至りに候。聊、年甫の答辭まで、此の如くに候。

注意

○かゝる手紙は、まづ、命に依り、同様目出たき意をのべ、次に、無事加年せるを祝し、終りに先せられ無禮せることをわぶべし、必ず、此こと忘るべからず。

用語

○華墨拜誦 ○朶雲拜讀 ○玉堂御そるひ ○貴翰拜見 ○尊家一同御揃ひ ○早速御祝詞下され ○御無禮千萬 ○祝答

仕り候 ○御答まで御わび仕り候

(七六) ●寒中見舞の文

(其二)

本年は、格別、寒氣甚しき様、感ぜらるゝが、貴兄如何、御しのぎなされ候か、定めて健全ならんを察し入り候。次に、生事、幸ひ寒冒の憂もなく、消光罷りある次第故、御安意相願ひたく、先は、御見舞まで、列々。

(其二)

嚴寒の節、尊堂一統、御清福の義と賀し奉り候。次

に、小子事、無異消光罷りあり候故、憚ながら御放念下されたく候。昨年中は、殊の外、先生の御厚情を蒙り、其後、しばらく御伺ひ申すべき心組みのところ、家事に従事いたし候ては、書生當時の身と異り、兎角多用、其意を果さず、ついつい御無音に打過ぎ、萬死の至りに候。此品、粗末ながら、机下に呈し候まゝ、御叱留お叱りおまわし下されたく候。

注意

○かゝる手紙は、寒暑甚しき故、身體の健全なるや、否やを懸念して、つかはすものなれば、其意を漏さざる様、注意せらるべし。

用語

○近年まれなる寒さ ○極寒 ○寒氣相加り ○堅氷終日消

えず ○塞威襲ひ來ること日一ト日に盛にして ○酷烈おたるべからざる勢 ○格別御さはりもなく御凌ぎなされ ○餘程の寒氣老體には定めて御困難と ○防寒用として此シャツ ○寒中見舞のしるしとして ○御用ゐ下され候はば ○御笑留下されたく

(七七) ●新年茶話會を催す文

(其二)

新年の祝意を表し、併せて、學友の交情を厚からしめんがため、明日午後二時より、某氏の下宿に會し、新年茶話會を相催したく、御同意に候はば、御來會下されたく候。

(其二)

新春の慶賀、一同然るべく候、就ては、明日午前十時より、新年茶話會を催し、快談壯語、舊交を暖めたく、何分とも、御賛成相なりたく候、會費は、金拾五錢以上、貳拾錢以下とし、福引の餘興をも行ひたく、尙、面白き御趣向も候は、御通知下されたく、右御案内に及び候。

注意

○かゝる手紙は、會の主意を明にするを要す。然らざれば、同情同意を起さざればなり。

用語

○同窓の好を厚ふせんがため○無事平穩たる國家の新春を祝し○同志の者を相會し○腹藏なく相語るは、如何

に樂しきことならずや○酒などの交りは、眞の交りならねば○是非とも御出席相なりたく

(七八) ●梅見を催す文

(其一)

庭前の梅花、清香を放ち候故、龜井戸臥龍梅は、定めて花氣を放ち候はんと推測いたされ候、明日晴天に候は、午前九時發足、探梅仕りたく、御同意の上は、こなたより立寄り申すべく候。

(其二)

昨日は、大に暖氣を催したれば、所々の梅花頻り

に蕾を破り、清香を放ち候とのこと、新聞紙上に其案内をかゞげられたり、来る日曜には、水戸公園まで、一泊の豫定にて、觀梅いたしたく、學生の汽車割引券は、既に取り寄せ置きたり、同行者は、學友七八、みな君の知己にて候、右案内いたし候、

注意

○かゝる手紙は、看梅の適切なる時なること、及、目的地は最も見頃なることを、たしかめ、又は、報知ありたることを、を報じて、出遊の念を起たしむることに、注意すべし。

用語

○春雨梅蕾を破り○雨後大に發花いたしたる報に接し候故○天氣打つゝきたれば○何公園の梅花今を盛りと咲きみだれたりと○清香馥郁たる梅花○其花大にして

○兩三日以前より人の集ふこといと多しと○適當の時期と存せられ○天氣の工合により○杖を曳かばや○飛報に接したれば

(七九) ●人の宿所を問ひ合はする文

(其二)

御子息忠次郎様は、當時、いづれに御寄宿いたされ候か、少々御相談願ひたく候へども、番地不案内にて、困却いたし候間、御手数ながら、御一報相願ひたく候。

(其二)

誠に御無沙汰のみ申し、御無禮の段、御ゆるし下されたく候。さて、御令弟義一君は、只今、東京何町何番地に止宿いたされ候か、承り申たく、實は、小生も上京いたしたき心組みなれど、地理不案内にて、いたし方なく候へば、弟君を煩し申したき故、何卒、御知らせ下されたく、偏に願ひ上げ候。

用語

○一度御目にかゝりたく ○中學入校のため上京のよし
○いづ方に御寄留いたされ候か ○某中學の様子承りたく
○是非御依頼申したく ○御所在不明にて ○御通知下されたく

(八〇) ●近火見舞の文

(其二)

昨夜は、御近火の旨、今朝聞き及びたり。定めて、御おどろきの事と存じ候。大に延引せる儀、御ゆるし下されたく、御見舞のしるしまでに、此品を差上げ申し候間、御落手下されたく候。

(其二)

昨夜は、近來まれなる大風、折柄、御近火にて、さぞ御驚愕の事と存じ候。早速御見舞申すべく、のさころ、尊宅は幸ひ御無難にて鎮火いたし候とのこと故、つひ御無禮仕り候段、悪しからず、思

召下されたく候、本日御見舞として、粗酒一樽、御目にかけて候以上。

用語

○御近火のよし今朝聞き及び○御全家一同御無事に候か○風下なれば火の粉吹き附けさぞ御心細きこと、○不幸中の幸と○土藏は残りたる次第○尊宅は如何あらせられ候か○幸ひ拙宅は無事に候○別段、負傷の方もこれなく候か○御家族一同無難にて御立ち退きあそばされたるにや

(八一) ●雨ふる日友人を集ふ文

(其二)

この雨天にては、いたしかたなく候故、友人を會

し、講讀いたしたく、殊に、定期試験前なれば、あだに其日を経過いたし候は、生等の本意にあらず、是非、御來臨下されたく、御待ち申し候。

(其二)

來れや君、今日は如何なる日ぞ、約束の梅見雪にさへぎられ、如何ともいたしがたく、さりながら、天却りて生等をして、一層の樂を増さしめんとめならんか、六花、一夜に來り、花なき里に、花を咲かしむ、其景いかで、あだに過ぐすべき、來りて見よ、生の前山、銀山を築くが如し、友人相會し、雪を

題に詠歌いたしたく、此段御案内申し上げ候。

用語

○一夜の銀世界○御約束も履行いたしがたく○庭前の梅、かへりて雨にさそはれ○詩賦の興味○つれづれの心をなぐさめんため○如何にして、くらさんと存じ候とこそ幸ひ某氏の訪問ありたれば○連歌の樂み相催したく

(八二) ●死を弔ふ文

(其二)

御尊父様御病氣のころ、養生相叶はせられず、遂に御逝去遊ばされたる趣、常々御孝心ふかき兄にこりては、御愁傷極るこそ、悲嘆の外なく候。併し天壽は、天の命なれば、いたし方なしと、御

あきらめ、御身大切にいたされたく、先は右御悔み申し上げ候。

(其二)

御令息様、久しく御病氣の由、聞き及たれど、つひく御無沙汰仕り、何共申しわけこれなく、承れば、先日御永逝なされ候由、さぞかし御悲傷の事と存じ奉り候。御香料として別封さし上げ候ま、御靈前に供し下されたく、末ながら申し上げ候は、他にこれなく、死するものは歸らざること候へば、あまり悲しみ候ては、御身のさはりこ

もなれば、御あきらめの上、御佛事いたされ候こそ、死者の功德を存ぜられ候、右、御弔ひまで、頓首。

注意

○人は感情の動物なれば、悲しき人には、悲しき同情をよするは大に其人をなぐさむるものなり、さりどて、悲哀のことばのみにては、かへりて又かなしみを増すものなれば、よろしく、なぐさみの意を表すべし、又、佛前に香花を供するも、よければ、物品をさし贈るも、禮なりとしるべし。

(八三) ●戦死者の祭典を催す文

明日は、北清事件終局日の紀念として、各軍隊に、休業出營をゆるさるゝ日に候へば、此日を幸ひ、戦死者某氏の追悼會を催し、亡靈をなぐさめたく、友人の情として、黙過するに忍びざれば、萬障さしくり、御來會下されたく候。

注意

○かゝる手紙は、友情として、其日をあだに経過するに、しのびさる故、追悼會をもよふものなれば、よろしく、其心をもて、認むべきなり。

用語

○昨何年何月何日の日に相當する故○紀念として追悼會相催したく○會費として金五拾錢、御持參下されたく○生前の友情もだしがたき故

(八四) ●法事に友を招ぐ文

明何日は、亡祖父、三週忌に相當するこゝ故、聊、法事相いとなみ、親戚、始め、御懇意の方々をまねき、

粗茶一服さし上げたく候間、午前拾一時拙宅まで御光來下されたく、御待ち申し上げ候。

用語

○亡父母○一週年祭○一週忌○三回忌○執行○法會仕り候故○該當いたし候につき○赤飯さし上げたく○佛参いたしたく○回向仕り候間○供養いたしたく○御迷惑ながら御回向相願ひたく候

(八五) ●遊學せる友人の許につかはす文

近來、貴兄の状況如何に候か、花の都の雪の空、こそと思ふ田舎の僻地、何とて學びの道しるべなきぞ、かなしきうたゝねの夢にこひしき君が、かび、最となつかしく侍り候。つきては、小生も本

年の試験相すみ候へば、上京いたす積りに候故、あらかじめ、御通知申し候、然る上は、何卒御世話相願ひたく候。

注意

○かゝる手紙は、其情のこまかならんことを要す、又、其他のありさま、及、己が境遇をも、申しやるべし

用語

○都の春は、さぞかし美々しき事ならん○これに引かへ古郷は相かはらずに候○花の都の春の、にぎはひ○花さく春の都の空○春の錦の隅田川、さぞなうれしき都鳥○面目は更なり○一度御目にかゝりたく○むかしながらの學びの友○君と釣せし川波に、むかしを思ふ我心○手を携へし時こそは、今に目の前にこれあり候○別にこれをどいふこともなく候

(八六) ●虚飾の友人を戒しむる文

當世ハイカラ紳士と稱へらるものは、内心腐敗
音に虚飾を旨とし、外見立派によそほふも、人を
なみし、國をそこなふの根元に、あらざるはなき
こと、貴兄も御承知の如くに候。然るに、貴下には、
此頃、大に衣類をかざり、隠然、高等官風を氣取る
が如く見受けられ候。かくては、御身のため、如何
と思はれ候まゝ、憚もなく、忠告いたし候間、御腹
立なく、御聞取り下されたく候、敬白。

用語

○満は損をまねく○古より虚飾の人の立身せるためし

なく○勤儉身を保ち○何の役に立ち申さるることなり
○士君子の愧る所なれば○學生の身を以て、甚だ過ぎた
るやに相覺え候○忠言、耳にさかふことなれば○御考へ
下されたく○御参考までに申し上げ候

(八七) ●粗暴なる友に送る文

活潑は、熟達の結果、粗暴は、不熟達、不心得のいた
すところと存せられ候。君には、如何に粗暴を御
解釋なされ候か、小生の見受くるところ、近來の
舉動、甚だ合點ゆかず候。定めて、貴兄には、活潑と
心得らるゝ事ならんも、世人は以て粗暴と批評
するやに聞き及び候まゝ、御注意なされたく、失

敬をかへりみず、かく申し上げ候まゝ、御聞き取り下されたく候。

用語

○日に、月に、粗暴に流るゝ様に、見うけられ候。○十目の見るところ、十指の指すところなれば。○心中、勝算なく、たゞに勇氣をよそはふは。○南方の強は、尊ぶべく、北方の強は、卑しむべく。○暴虎馮河の勇と申すべく。

(八八) ●雪見に友を誘ふ文

夜來、大雪、滿天下、みな、銀河とて、幽居するにしのびん、我輩、壯者、よろしく、雪中行軍を試むべしと、勇氣勃然たり。君、それ勇ありや、否や、隅田川の雪、待乳山のながめ、また一層の興あること、存ぜ

られ候まゝ、杖を曳き、以て、其眞を探らん。君來れ、余出でんと欲す、貴報、相まち申し候。

用語

○文人墨客いとたのしげに相詠め申すらん。○寒氣何を恐れん。○思ひ餘る次第に候故。○一夜の花木と變はり候は。○枯木に花さく春の空と相なり申し候。○寒冷を感じ候も。○望を野外に放ち候へば。○直様發足いたしたく。○舟に棹さし。○ボートを馳しらせ。

(八九) ●ボート競争を催す文

仁者は水を樂しむと、ひとり、仁者のみならず、英國人の水を愛すること甚しと承り候。さればこそ、老者、壯者を問はず、ボート競争に熱心なりと

聞き及び候。小生等、少壯、水を愛すると同時に、腕力を研磨し、大は以て國家の海事志想にまで影響いたす様、企望するの今日なれば、寒氣を冒し、其技を試むるこそ、眞の競争と存ぜられ候まゝ、明日、早天より學友を會し、隅田川に、ボート競争相催したく、奮て御賛成相なりたく候。

注意

○我邦の如く、四面みな海なる地は、海事志想の發展を望むどころなれば、獨り、遊戯にのみ、心を寄すべきものにあらず、さればこそ、かゝる手紙も、出來たるものなれば、讀者、これを諒し、かゝる手紙には、なるべく其理由を壯にして、同志をして奮勵せしむるが如く、したゝめられんことを

望む。

用語

○我邦の如きは、人々水に心得なかるべからずと、存せられ候。○英國の今日あるは、船にありと考へられ候。○日英同盟の成立せる今日をや。○夏季、涼を取らんがため、これをなすは、唯に娛樂に過ぎざるものと存せられ候。○競争、滿身汗を催し候へば、なにとて寒さを恐れ申すべき。○天氣都合に依り。○若し雨天に候は、追て、日限は御通知申し上ぐべく候。

(九〇) ●修學旅行せんとして父の許に遣る文

御尊父様には、何の御障りもなく、御くらしなされ、又、母上様始め、家内一同、御無事の事と察し入

り候。次に、私事、壯健にて勉強いたし居り候間、御安心下されたく候。さて、本學年修學旅行の儀は、いよく來週日曜の翌日、發足、旅費は金參圓位の豫定にて、房總沿岸を實驗することに確定いたし候。一見は百聞に如かずとの格言もこれあり候へば、其益する所大ならんと存ぜられ候故、私も同行いたしたく、御聞きすみ下され候はば、旅費御送り下されたく、偏に願ひ上げ候。旅行の模様は、實驗の上、くはしく御報申し上ぐべく候以上。

注意

○かゝる手紙は、父母の安否を問ふと同時に、己が無事なることを通じ、父母をして安心せしむべく、又、旅行費などは、無益の金錢にあらねど、實際の入費を申しこし、其許可を乞ふべし、必ずしも其當然の出費となし、強請の意味あるべからず

用語

○御兩親様、御そろひ御壯健 ○小子まことに、まめやかにて ○風邪の障りもなく ○一日たりとも欠席なく ○別紙勤怠表の如く、日々出席いたし候 ○かねて御願ひ申し上げ候 旅行費 ○一二年合併にて二百名あまりに御座候 ○四日間の豫定に候 ○監督として舎監二名、先生四名、付添ふことに候 ○費用として、かねて小生貯金いたし置き候 小遣より支拂ふ積りに候 ○小遣ひ料として、外に金一圓御送り相ねがひたく ○鎌倉方面に旅行いたし、歴史上有

名の古蹟をたづね○交通機關をも視察する積りに候

(九一) ●觀兵式拜觀に友人を誘ふ文

拜啓、明日は、陸軍始めにつき、青山練兵場に於て、至尊の御臨幸を辱ふし、觀兵式を執行せられ候由、其の壯大勇壯なること、得も言へぬこと、存ぜられ候も、未だ拜觀の榮を得ず、是非一度、拜觀いたしたく候へども、一人にては、さびしく候ま、御同行願ひたく、御同意下され候は、午前七時を期し、小生より、御伺ひ申すべく候。

注意

○かゝる手紙は、勇壯にかき表はすべし。さりとして、事

至尊のことに至りては、よく／＼用語を注意し、無禮なきやうにすべく、其認め方も、正しく、且、一字を明くるか、若くは別行より書くべし。

用語

○陸海軍は、我國の柱石、國防の必要機關なれば○日清戰役以來、列國の注視するところとなり候へば○國威を發揚すること○いと、勇ましく○練兵場○陸軍始めの事として○公式を挙げられ○正式○儀正○軍服のいかめしさ○我軍人の規律を守るの様を見そなはし○施行いたし○御臨幸し給ひて○將校を始め士卒に至るまで○國の一大儀式なれば○是非とも拜觀仕りたく

(九二) ●同返事

貴命の如く、明日は、例年の通り、陸軍始めに付、觀

兵式舉行せられ、天皇陛下の御臨幸あらせ給ふ佳節に候へば、國民として、其盛舉を知らざるも、耻ぢ入る所、幸ひ隨行願ひたく、勝手ながら、御立寄りのほど相願ひ候、貴酬。

用語

○尊書拜誦 ○明日、觀兵式拜覽のこと御誘ひ下されありがたく ○國民の知らざるべからざる義務とも存せられ候故 ○早朝より御伺ひ申すべく ○定刻には、必ず、御立寄り申し上ぐべく ○飯田町より汽車を利用すれば、時間の心配はなからんと存じ候 ○徒歩いたしたく ○便利よろしく候は、貴命にしたがふべく ○常々小生も拜觀せばやと存じ居るところ ○御同伴 ○御同道 ○小生從來の望

み故誠に幸のことに候

九三 ●紀元節に友を集ふ文

(其一)

本日は、我國の創立と申すべき 神武天皇の皇位に即かせ給ひし佳辰なれば、我が輩臣民たるものは、大に祝すべき日と存じ候故、親友相會し、茶菓の催しをなすとともに、聊か、祝意を表したく、野生宅まで御出を給はらば、本懐の至りに候。

(其二)

春寒未だ去りやらず候處、愈御清適の段、賀し奉

り候。陳れば、明十一日は、紀元節の佳辰に當り、日本臣民舉て祝賀いたすべき吉日に候へば、同志を相會し、祝賀の式を施行いたし、併せて、詩文を戦はせたく、御同意に候はゞ、午後一時より、弊屋へ御貴臨相なりたく、御待ち申し候。

用語

○我國の基定めし、佳辰なれば○萬世一系の皇運を開き給ひし吉辰に候へば○國家設立の始めなれば○御即位あらせ給ひし日○動きなき世の、もとひ定めし佳節に候○上下ともに祝賀すべき日なれば○臣民の、ゆるがせにすべからざる祝日○祝表いたしたく○賀意を表したく○御來臨下されたく○御入來下されたく

(九四) ●勤儉貯蓄を奨励する文

御承知の如く、日本人は、兎角、華美を好み、金錢を徒費するの悪弊あることは、學者先輩の憂ふる所にして、夙に、勤儉貯蓄論を稱ふるものありしを、當時さまでに感じ申さず、一時の流行論とのみ聞き流し候。然るに、其後、疾病にかゝり、囊中無一物にて閉口いたしたる故、爾來、茶菓飲食を始め、靴なども、大に節約を施し、毎月若干の貯金いたしたるに一年餘にして、元利金五圓と相なり候。本年は、修學旅行の費用とては、別に父兄に仰

がざるも可なる有様、ちりも積れば山をなすの
譬へ、申すも失禮ながら、貴兄に於ても、かゝる方
針を執られ候は、如何、余の實驗に徴し、御奨勵
申し上げ候。

注意

○己れの爲し能はざる事を、他人にすゝむるは、無責任の
談論にて、聞く人、かへりて、其人を笑ひ、あるは、うらむるこ
とともなるものなれば、かゝる手紙は、己れの實行のさま
を、のべて、以て、人をすゝむるを可とす、

用語

○貯金は、人の不意に供ふるものなれば、○如何なる不幸
に遇はんも、計りがたく候故、○人に依らずして、身を助く
ることを得れば、○冗費を節し、書籍の料となすも、上策な

れば、○書冊は、生等の田地なれば、○貯金は、身を守るの大
本なれば、○金銭をいたづらに使用せず、○苦みを忍び、貯
金の工風をなせば、○勤儉貯蓄は、大にしては、國家の基礎
を安固ならしむるものなれば、○今日國民の風俗を改良
するの一端と存じ候まゝ、○我々不肖、卒先して、○銀行の
利金は、少なればとて、世人、大にこれを忌め、利に利を加
ふれば、なかく増加するものなり、○御聞き取り下され
たく候

(九五) 同返事

御來書に依れば、勤儉貯金の利益、いさねもごろ
に御説明、御すゝめ下され、まことにありがたく、

感謝いたし候。仰の如く、貯金は人として欠くべからざる事とは存じ居り候へども、言ふは易く、行ふは難きたとへにて、つひく實行いたさず、愧入り候。貴兄の轍をふみ、早速履行いたすべく、先は御厚意を謝し、併せて、小生の意見、右の如くに候、以上。

注意

○かゝる手紙は、其親切を謝するを第一とす。よし、いさゝか、己れの意に服せざればとて、厚意は容れざるべからざればなり。

用語

○貴命の如く、勤儉いたすべく、○徒費は相省き申すべく、○縷々御勸諭下され、○感服仕り候、○感佩の至りに堪へ

ず候、○僅かなりども、剩餘を貯へ申すべく、○後日の備へ、いたすべく候

(九六) ●尚武の志を奨励する文

我國、曩に、征清の役に、國威を揚げ、北清事件に名譽を博し、今や、平和克復いたし候へども、爾來、外交上に、軍備上に、多々、益國民の負ふべき義務を、して、重からしむるの今日、少壯男子など、て、安逸をむさぼるべき、一層、尚武の志想を鼓舞すべきの時ならんと、愚考いたし候故、其一端として、先月以來、柔劍道、相始め候處、身體を練る上につ

きては、いそ効あることに候へば、貴兄にも、修學の餘科として、修められては如何にや、御勧め申し上げ候。

用語

○我國古より武を以て、あらはれたること、史を讀む人のよく知るところに候○今日の形勢は武裝的競争なれば國際間の交誼、破烈いたたらんには武力に訴ふるの外なく候○國民の尙武の氣象は、益盛ならしむるの必要あることなれば○ますく武を講せざるべからず候○柔劍道は、團體争闘には適せざるも、箇人として相争ふ時は、護身に必要なる技に御座候○我國固有の武技に候へば○國是とも申すべく○文あるもの、亦武備ありとかや○

國民の本分に候へば○兵式體操は、最も必要に候へば○御勧誘申し候○御奨め申し候

(九七) ●日清戦争の錦繪を贈る文

小生こたび、某中學卒業いたし、歸郷仕り候につきては、早速、御伺ひ、申すべきところ、兎角、用事に取紛れ、外出いたしがたく、疎外の段、御ゆるし下されたく候、其中、拜趨、謝罪仕るべく候。別封、日清戦争錦繪三葉、土産のしるしとして、進呈仕り候間、御子様方尙武の一端、さも相成り候は、幸福の至りに御坐候。

用語

○私儀不成績ながら無事卒業いたし○卒業者の末位に加はり○末班○末席○去る何日歸宅仕り候○久々の事なれば直ちに訪問いたすべくのところ○舊友の訪問を辱ふしために、外出いたしがたく○緩々御はなし申したく○粗末なれど○北清事件の繪なれば○五枚つゞき一組○教育の御材料にも相立ち候はゞ御受納下されたく○御笑留下されたく

(九八) ●卒業を祝するため招ぐ文

貴兄、此たびの卒業試験には滞りなく、卒業證書、御落手相なり、殊に上成績の旨、漏れ聞き、何よりの儀と御祝ひ申上候。去る何日、無事御歸宅の由

御疲れもあらんが、御祝ひとして、粗茶さしあげ申上たく候間、今日午後三時、拙宅まで、御入來下されたく、愚父にも御待ち受け申し居り候ま、諸事御さしくり相なりたく候。

用語

○先般、施行の卒業試験○好成绩にて卒業○第一位を占め○第一番の卒業○まことに御よろこばしく○欣喜の至りに候○聊祝意を表したく候間○何の風情もなく候へども○手料理さし上げたく候ま、○御來車下されたく○御來駕○御枉駕

(九九) ●一身の方向を友人に詢る文

爾來、御疎遠の段、御ゆるしあれ。さて、小生、此たび

中學卒業いたしたるにつきては、國元父上より、歸國の上、農事につくべき旨申しこされ候も、これ小生の素志にあらず、さりとして父命に戻りがたく、それも強ひて願ふならば、愚父もゆるさぬといふにもあらねど、前に高等學校撰抜試験の一大關門をひかへ候故、失敗いたし候ては、面目なく候へば、却て他方面に向ひ進行の方針を取らんか、一身の方向こゝに至りて谷まれりといふべく、今日となり、かく申し候は、あまり志操の薄弱なりしを自白するものにして、愧ぢ入る次

第なれども、境遇の然らしむる所、如何ともいたしがたく、小生の一心にて、決しかたく候まゝ、何分の御意見、御保助、相願ひたく、希望仕り候。

注意

○かゝる手紙は、一身の處置につき、心意錯雜、一途をゑらぶ能はざる時に、最も親しき友には、かるものなれば、腹藏なく意思のあるところを示し、相手方の感情を盛ならしめ、誠意補助の勞を取らるゝ様、ねもごろに、認むべし。

用語

○卒業は名のみにして、實質は爾後の研究にあることなれば、○今日、身を文墨に起さんよりは、却て工業界に投じ候は、○商業學校に入校致す方、捷路ならずや、○海軍は比較的昇級の早きものなれば、○食料位の送金は、いたさ

るゝも、其餘は身みづから求むるの道を講せざるべからず
 ○先輩の指導に依り○身を實業によせばやと思ひわづらひ申し候
 ○文官任用令に依り、判任官の資格はあれど○進退谷まり申し候
 ○拙生の意見は、此の如くに候故、何分御判断相願ひたく○御依頼申し候

(一〇〇) ●義捐金を募集する文

今回、何事件さし起り候につきては、國家の一大事、國民の最もつくすべき時期と存せられ候。併し、直接、其事にあづからざる者にありては、如何に武に長し、文に秀づるも、いたしかたなく、むしろ、其財源の一部なりとも、補助いたし候はゞ、返

りて、國家に忠なるものとも申すべきか、ご考へられ候に付、小生等不肖を省みず、ここに、義捐金を募る次第に候へば、趣意御賛成なし下され、應分の御出捐相願ひたく、希上奉り候。

注意

○かゝる手紙は、趣意の如何に依りて、賛否を決するものなれば、よろしく、其意のあるところを明瞭ならしむべし。然るに、今日、世間、利己主義の人多く、名を義捐にかりて、あいまいの働をなすものあれば、かゝるものと見誤られざるやう、注意を加ふべきなり。

用語

○故某先生は本校に盡せること尠少にあらざれば○其功の大なる、今更、多言を要せず○諸君の知悉せるところ

なれば○不幸にも身を國難に殉し候へば○國民の義務なれば○擧て義捐せばやと○遺族の扶助料として○若干金をさし贈りたく○獻納金○重大の事件○有力者の御贊助を仰ぎ申したく○多少を論せず○御出金相願ひたく

(二〇二) ●在宅を乞ふ文

かれて大略を御はなし申し上げ置き候件に付、今一應篤と御協議相願ひ、是非々々、御補助を乞ひたく、明日は日曜に候へば、參館いたしたく候故、失敬なる申し分なれども、御在宿相願ひたく候、餘は拜顔の節にゆづり申し候。

注意

○かゝる手紙は、已れの用事をもて、在宿を乞ふものなれば、ことばを卑ふし、其失禮を謝すべきなり。

用語

○彼の件に付、是非、御意見相伺ひ申したく○略、申し上げ置き候へども○御懇話相願ひたく○篤と御相談相願ひたく○一身の處置に窮し候まゝ○別段さしつかへも御座なく候はゞ○明何時には伺ひ申し上げたき故○御都合御伺ひたく○勝手ながら、あらかじめ、御伺ひ申したく○何卒、御在館を乞ひたく候

(二〇三) ●同窓會を開會する文

某中學、春期同窓會、第拾回總會、來る何日を以て開會いたし候につき、萬障、御さしくり、御出會相